

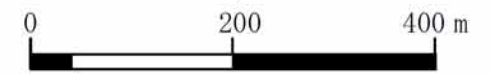
注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

凡 例	
□	ヒナコウモリ科I
▽	ムササビ
○	ヒメネズミ
△	ツキノワグマ
◇	タヌキ
○	テン
☆	イタチ
♡	カモシカ
■ (pink)	春季
■ (green)	夏季
■ (orange)	秋季
■ (blue)	冬季
□ (thin border)	対象事業計画地
□ (thick border)	東工区
○ (dashed)	東工区工事エリアより200mの範囲

図 7.7-4 注目すべき種(哺乳類)確認位置



1:7,500



イ 鳥類

① 確認種

a) 一般鳥類

確認された一般鳥類は、表 7.7-14(1)～(2)に示すとおりである。

事後調査の結果、春季に 10 目 29 科 46 種、初夏季（夜間調査）に 2 目 2 科 2 種、夏季に 10 目 27 科 39 種、秋季に 8 目 21 科 35 種、冬季に 9 目 25 科 43 種、合計 14 目 35 科 72 種の鳥類が確認された。

██████████では、コゲラやアカゲラ、アオゲラといったキツツキ類、サンコウチョウ、カケス、コガラやヤマガラ、ヒガラ等のカラ類のほか、ヤブサメ、ミソサザイ、キビタキ等の樹林性の鳥類が確認された。

██████████ではキジやヒバリ、ツバメ、ノビタキ、スズメ等が確認されている。このうち、ツバメやスズメ等の人為環境にて繁殖する種は██████████においても確認されている。

その他、██████████ではコハクチョウやオシドリ、カルガモといったカモ類、ダイサギやアオサギ等のサギ類のほか、カワセミ等が確認された。

なお、ハシブトガラスやハシボソガラスは樹林から草地、人為環境までの多様な環境で多数確認された。

表 7.7-14(1) 確認種（鳥類：一般鳥類）※¹（1/2）

No	目名	科名	種名	学名	春季	初夏季※ ²	夏季	秋季	冬季		
1	キジ	キジ	ヤマトリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	○						
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○		○	○	○		
3			コシユケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>				○	○		
4	カモ	カモ	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>					○		
5			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>						○	
6			オントリ	<i>Aix galericulata</i>					○		
7			マカモ	<i>Anas platyrhynchos</i>						○	
8			カルカモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○			○	○	○	
9			オカカモ	<i>Anas acuta</i>						○	
10			コカモ	<i>Anas crecca</i>						○	
11			ホシハンロ	<i>Aythya ferina</i>						○	
12	カイヅツリ	カイヅツリ	カイヅツリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○						
13	ハト	ハト	キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○		○	○	○		
14	カワトドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>				○	○		
15	ペリカン	サギ	コイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>		○	○				
16			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○		○	○			
17			クイサギ	<i>Ardea alba</i>	○		○	○			
18	ツル	クイ	オオハン	<i>Fulica atra</i>					○		
19	ヨカ	ヨカ	ヨカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		○	○				
20	チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○		○				
21	カ	カ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○		○	○	○		
22			サンバ	<i>Butastur indicus</i>				○			
23			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○						
24	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○		○				
25	キツキ	キツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○		○	○	○		
26			アケゲラ	<i>Dendrocopos major</i>				○	○	○	
27			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○				○		
28	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>					○		
29	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○		○				
30			カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○		○			
31		モス	モス	<i>Lanius bucephalus</i>	○		○	○	○		
32		カラス	カラス	カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	○			○	○	
33				オカ	<i>Cyanopica cyanus</i>	○			○		
34				ハンボツカラス	<i>Corvus corone</i>	○			○	○	○
35				ハンボツトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○			○	○	○
36				キクイタギ	キクイタギ	<i>Regulus regulus</i>					○
37		シジュウカラ	シジュウカラ	コガ	<i>Poecile montanus</i>	○			○		
38				ヤマガ	<i>Poecile varius</i>	○			○	○	○
39				ヒガ	<i>Periparus ater</i>					○	○
40				シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○			○	○	○
41		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○		○				
42		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○		○				
43		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○		○	○	○	○	

※1:種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012年)に準拠した。

※2:初夏季は夜間調査のみを実施した。

表 7.7-14(2) 確認種（鳥類：一般鳥類）※¹（2/2）

No	目名	科名	種名	学名	春季	初夏季※ ²	夏季	秋季	冬季	
44	スズメ	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○		○	○	○	
45			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○		○			
46		エナカ	エナカ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○			○	○	
47		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○					
48		ムシロ	ムシロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○		○	○	○	
49		ゴシユウカラ	ゴシユウカラ	<i>Sitta europaea</i>					○	
50		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○		○	○	○	
51		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○		○		○	
52		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	○					
53			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○			○		
54			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>						○
55			ジョウビトキ	<i>Phoenicurus aureus</i>						○
56			ヒバキ	<i>Saxicola torquatus</i>					○	
57			イビヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○					
58	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○			○				
59	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○		○	○	○		
60	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>			○				
61		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○		○	○	○		
62		セウロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○		○	○	○		
63		ヒンスズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>					○		
64	アトリ	カワヒトリ	<i>Chloris sinica</i>	○		○	○	○		
65		マヒトリ	<i>Carduelis spinus</i>	○				○		
66		ベニマシロ	<i>Uragus sibiricus</i>					○		
67		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>					○		
68		イカル	<i>Eophona personata</i>	○		○	○			
69	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○		○	○	○		
70		カシラガカ	<i>Emberiza rustica</i>					○		
71		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○				○		
72	チムドリ	カビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	○		○	○	○		
合計	14目	35科	72種	-	46種	2種	39種	35種	43種	

※1:種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012年)に準拠した。

※2:初夏季は夜間調査のみを実施した。

【ラインセンサス調査】

ラインセンサス調査で確認された鳥類は表 7.7-15(1)～(2)に示すとおり、合計 8 目 27 科 48 種であった。

R2 では合計 33 種 220 個体の鳥類が確認された。R2 では、樹林や林縁に生息するヤマドリやエナガ、ヤブサメ、暗い林を好むサンコウチョウ、明るい雑木林に生息するキビタキやイカルが確認された。

R3 では合計 32 種 245 個体の鳥類が確認された。R3 は R2 と異なり、R2 ではカワセミ、R3 ではコチドリ、ヒバリやハクセキレイ、R2 ではツバメやスズメが確認された。

確認種の特徴として、R2 では R2 を代表する種が多く確認されており、R3 では R3 を代表する種が確認された。

表 7.7-15(1) 確認種（一般鳥類：ラインセンサス調査）※1,2 (1/2)

No	目名	科名	種名	地点 R2								地点 R3								
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季		
				個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	
1	キジ	キジ	ヤマドリ	1	(1.5)															
2			コジユクイ			2	(3.5)													
3	カモ	カモ	コハクチョウ															3	(7.1)	
4			オオハクチョウ																5	(11.9)
5	ハト	ハト	キジハト	1	(1.5)			1	(2.3)			1	(2.9)	2	(3.0)	1	(1.0)			
6	チドリ	チドリ	コチドリ									1	(2.9)							
7	タカ	タカ	トビ					1	(2.3)										3	(7.1)
8			サシバ										1	(1.5)						
9	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ											1	(1.5)					
10	キツツキ	キツツキ	コゲラ			1	(1.8)	1	(2.3)	4	(7.4)			1	(1.5)	2	(2.0)			
11			アカゲラ					2	(4.7)	1	(1.9)					1	(1.0)			
12			アオゲラ													1	(1.0)			
13	スズメ	キンショウクイ	キンショウクイ	1	(1.5)							4	(11.4)							
14		カササギヒタキ	サコウチョウ	2	(3.0)	3	(5.3)													
15		モズ	モズ	1	(1.5)			1	(2.3)			1	(2.9)			3	(2.9)			
16		カラス	カラス	カラス	1	(1.5)			3	(7.0)	2	(3.7)					3	(2.9)	1	(2.4)
17			オナガ										2	(5.7)	2	(3.0)				
18			ハボソカラス						2	(4.7)			1	(2.9)	1	(1.5)	4	(3.9)	2	(4.8)
19			ハブトカラス					2	(3.5)	1	(2.3)	1	(1.9)			2	(3.0)	5	(4.9)	4
20		シジュウカラ	コガラ	コガラ	3	(4.5)			1	(2.3)										
21			ヤマガラ	ヤマガラ	5	(7.6)	5	(8.8)	3	(7.0)	5	(9.3)			1	(1.5)	2	(2.0)		
22			ヒガラ								4	(7.4)								
23			シジュウカラ	シジュウカラ	4	(6.1)	5	(8.8)	2	(4.7)	11	(20.4)						2	(2.0)	
24	ヒバリ	ヒバリ										1	(2.9)	4	(6.1)					
25	ツバメ	ツバメ										9	(25.7)	1	(1.5)					

※1:種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012年)に準拠した。

※2:優占は、各回の調査についてラインセンサスで記録された個体数から各鳥種の相対的な優占度を示す。

表 7.7-15(2) 確認種（一般鳥類：ラインセンサス調査）※1,2 (2/2)

No	目名	科名	種名	地点 P2								地点 P3									
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季			
				個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)		
26	スズメ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	7	(10.6)	13	(22.8)	9	(20.9)	13	(24.1)	5	(14.3)	11	(16.7)	62	(60.8)	4	(9.5)		
27		ウグイス	ウグイス	4	(6.1)	4	(7.0)	1	(2.3)			3	(8.6)	1	(1.5)	2	(2.0)				
28			ヤブサメ	ヤブサメ	4	(6.1)	2	(3.5)													
29			エナガ	エナガ	2	(3.0)			6	(14.0)	2	(3.7)									
30			ムシクイ	センダムシクイ	1	(1.5)															
31			メジロ	メジロ	7	(10.6)	10	(17.5)	4	(9.3)				1	(1.5)	2	(2.0)				
32			コシユウカラ	コシユウカラ							3	(5.6)									
33			ミソサザイ	ミソサザイ							1	(1.9)									
34			ヒタキ	トラツグミ	1	(1.5)															
35				ジョウビタキ													1	(2.4)			
36				キビタキ	キビタキ	5	(7.6)	1	(1.8)												
37			スズメ	スズメ									4	(11.4)	2	(2.0)	5	(11.9)	4	(11.4)	
38			セキレイ	ハクセキレイ									1	(2.9)	4	(3.9)	2	(4.8)	1	(2.9)	
39				セグロセキレイ									1	(2.9)	3	(2.9)	2	(4.8)	1	(2.9)	
40			アトリ	カラヒトリ	1	(1.5)	1	(1.8)													
41				マヒリ	6	(9.1)					3	(5.6)									
42				ヘビマシコ														1	(2.4)		
43				シメ														1	(2.4)		
44				イカル	イカル	1	(1.5)	2	(3.5)	4	(9.3)										
45			ホオジロ	ホオジロ			1	(1.8)			1	(1.9)	1	(2.9)	1	(1.0)	8	(19.0)	1	(2.9)	
46				カシラガカ							3	(5.6)									
47				アオシ	アオシ	3	(4.5)														
48			チメドリ	カビチョウ			5	(8.8)	1	(2.3)					2	(2.0)					
合計		8 目	27 科	48 種	22 種		15 種		17 種		14 種		14 種		18 種		18 種		14 種		
					66 個体		57 個体		43 個体		54 個体		35 個体		66 個体		102 個体		42 個体		
					33 種 220 個体								32 種 245 個体								

※1:種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012年)に準拠した。

※2:優占は、各回の調査についてラインセンサスで記録された個体数から各鳥種の相対的な優占度を示す。

【定点センサス調査】

定点センサス調査で確認された鳥類は表 7.7-16(1)～(2)に示すとおり、合計 8 目 25 種 45 種であった。

P2 では合計 26 種 185 個体の鳥類が確認された。P2 の環境は [redacted] となっており、樹林性のコゲラやサンショウクイ、サンコウチョウ、コガラ、キビタキ、イカルのほか、樹林内や林縁部の藪を好むヤブサメ等の [redacted] を指標する種が確認された。

P3 では合計 34 種 263 個体の鳥類が確認された。P3 の環境は [redacted] となっており、農耕地等の開けた環境で採餌するキジやモズ、ツバメ、ムクドリ、スズメ等の [redacted] を代表する種が確認された。

表 7.7-16(1) 確認種（一般鳥類：定点センサス調査）※1,2 (1/2)

No	目名	科名	種名	P2				P3											
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季	
				個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)
1	キジ	キジ	キジ							2	(5.9)						2	(2.1)	
2			コジュクイ											1	(0.9)				
3	カモ	カモ	コハクチョウ														7	(7.3)	
4			オオハクチョウ														54	(56.3)	
5			カルカモ							1	(2.9)								
6	ハト	ハト	キジハト	1	(2.0)			2	(2.0)			2	(5.9)			4	(3.5)	1	(1.0)
7	ペリカン	サキ	コイサキ									1	(5.3)						
8	チドリ	チドリ	コチドリ							1	(2.9)								
9	カ	カ	トビ	1	(2.0)			1	(1.0)										
10			ノスリ							1	(2.9)								
11	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	(2.0)	1	(7.1)	1	(1.0)	1	(5.3)								
12			アカゲラ			1	(7.1)	1	(1.0)	1	(5.3)				1	(0.9)	1	(1.0)	
13			アオゲラ	1	(2.0)														
14	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	1	(2.0)	1	(7.1)												
15		カササギヒタキ	サンコウチョウ	1	(2.0)														
16		モズ	モズ							1	(2.9)				3	(2.6)	1	(1.0)	
17		カラス	カラス	5	(10.0)			1	(1.0)	1	(5.3)				11	(9.6)			
18			ハシホノアカ	2	(4.0)							1	(5.3)						
19			ハシブト			1	(7.1)	2	(2.0)			4	(11.8)	1	(5.3)	1	(0.9)	1	(1.0)
20		シジュウカラ	コガラ	5	(10.0)			4	(3.9)										
21			ヤマカエ	1	(2.0)	1	(7.1)	1	(1.0)	2	(10.5)	2	(5.9)						
22			シジュウカラ	1	(2.0)			2	(2.0)	2	(10.5)	3	(8.8)			2	(1.8)		
23		ツバメ	ツバメ							2	(5.9)	2	(10.5)						
24		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	(4.0)	1	(7.1)	62	(60.8)	2	(10.5)	2	(5.9)	6	(31.6)	79	(69.3)	7	(7.3)
25		ウグイス	ウグイス	2	(4.0)			2	(2.0)			3	(8.8)						
26			ヤブサメ	1	(2.0)	1	(7.1)												
27		エナガ	エナガ	3	(6.0)			6	(5.9)						2	(1.8)			

※1:種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012年)に準拠した。

※2:優占は、各回の調査についてラインセンサスで記録された個体数から各鳥種の相対的な優占度を示す。

表 7.7-16(2) 確認種（一般鳥類：定点センサス調査）※1,2 (2/2)

No	目名	科名	種名	P2								P3									
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季			
				個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)		
28	スズメ	ムシクイ	センダイムシクイ	1	(2.0)																
29		メジロ	メジロ	1	(2.0)	2	(14.3)	1	(1.0)	1	(5.3)				1	(0.9)					
30		ムクドリ	ムクドリ									3	(8.8)	1	(5.3)			2	(2.1)		
31		ヒタキ	クロツグミ													4	(3.5)				
32			ツグミ															1	(1.0)		
33			キビタキ	1	(2.0)																
34		スズメ	スズメ									4	(11.8)	5	(26.3)						
35		セキレイ	ハクセキレイ				1	(1.0)				1	(2.9)	1	(5.3)	1	(0.9)				
36			セグロセキレイ									1	(2.9)								
37			ヒメソライ													1	(0.9)				
38		アトリ	カラヒタ														3	(2.6)	11	(11.5)	
39			マヒワ									6	(31.6)								
40			ベニマシロ																2	(2.1)	
41			シメ																	5	(5.2)
42			イカル	1	(2.0)	2	(14.3)	5	(4.9)												
43		ホシヅロ	ホシヅロ									1	(2.9)								
44	カシラダカ																	1	(1.0)		
45	チムドリ	カビチョウ			1	(7.1)				1	(5.3)			1	(5.3)						
合計	8 目	25 科	45 種	22 種		11 種		16 種		10 種		17 種		9 種		14 種		14 種			
				50 個体		14 個体		102 個体		19 個体		34 個体		19 個体		114 個体		96 個体			
				26 種 185 個体								34 種 263 個体									

※1:種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012年)に準拠した。

※2:優占は、各回の調査についてラインセンサスで記録された個体数から各鳥種の相対的な優占度を示す。

b) 猛禽類

定点調査で確認された猛禽類は表 7.7-17に示すとおり、2目3科10種確認された。最も多く確認された種はノスリ（93回）、次いでオオタカ（48回）、ハチクマ（40回）であった。

また、林内踏査（繁殖状況確認）で新たに確認された繁殖巣は表 7.7-18及び図 7.7-5に示すとおり、XXXXXXXXXXの2巣であり、東工区（改変区域）からXXXXXXXXXXに位置していた。XXXXXXXXXXではオオタカ、XXXXXXXXXXではハチクマの営巣を確認した。

なお、確認種の確認状況及び繁殖行動等は後述の「② 注目すべき種 b) 猛禽類」に示すとおりである。

【事後調査で確認された繁殖巣とその利用種（平成31年2月～令和元年8月）】（図 7.7-5参照）

- ・ XXXXXXXXXX : オオタカ 東工区（改変区域）より XXXXXXXXXX
- ・ XXXXXXXXXX : ハチクマ 東工区（改変区域）より XXXXXXXXXX

表 7.7-17 定点調査結果（鳥類：猛禽類）※1,2

No.	目名	科名	種名	学名	確認回数（回）								合計
					平成31年			令和元年					
					2月	3月	4月	5月	6月(1)	6月(2)	7月	8月	
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>			2			1		1	4
2		タカ	ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>				5		5	24	6	40
3			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>								2	2
4			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	4	5		2	1		1		13
5			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	15	14	9		3	4		3	48
6			サシバ	<i>Butastur indicus</i>			2	2		2		15	21
7			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	10	17	10	12	6	4	20	14	93
8	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	3		1	2				14	20
9			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>								2	2
10			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	1	1					1	5	8
-	2目	3科	10種	-	33回	37回	24回	23回	10回	16回	46回	62回	251回

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会，2012年）に準拠した。

※2：タカ目タカ科トビ（*Milvu smigrans*）は調査対象外とした。

表 7.7-18 猛禽類の繁殖実績一覧※1

No.	巣 No.	利用種※2	巣の利用状況※3							備考
			～H11	H19	H20	H21	H22	H24	H25	

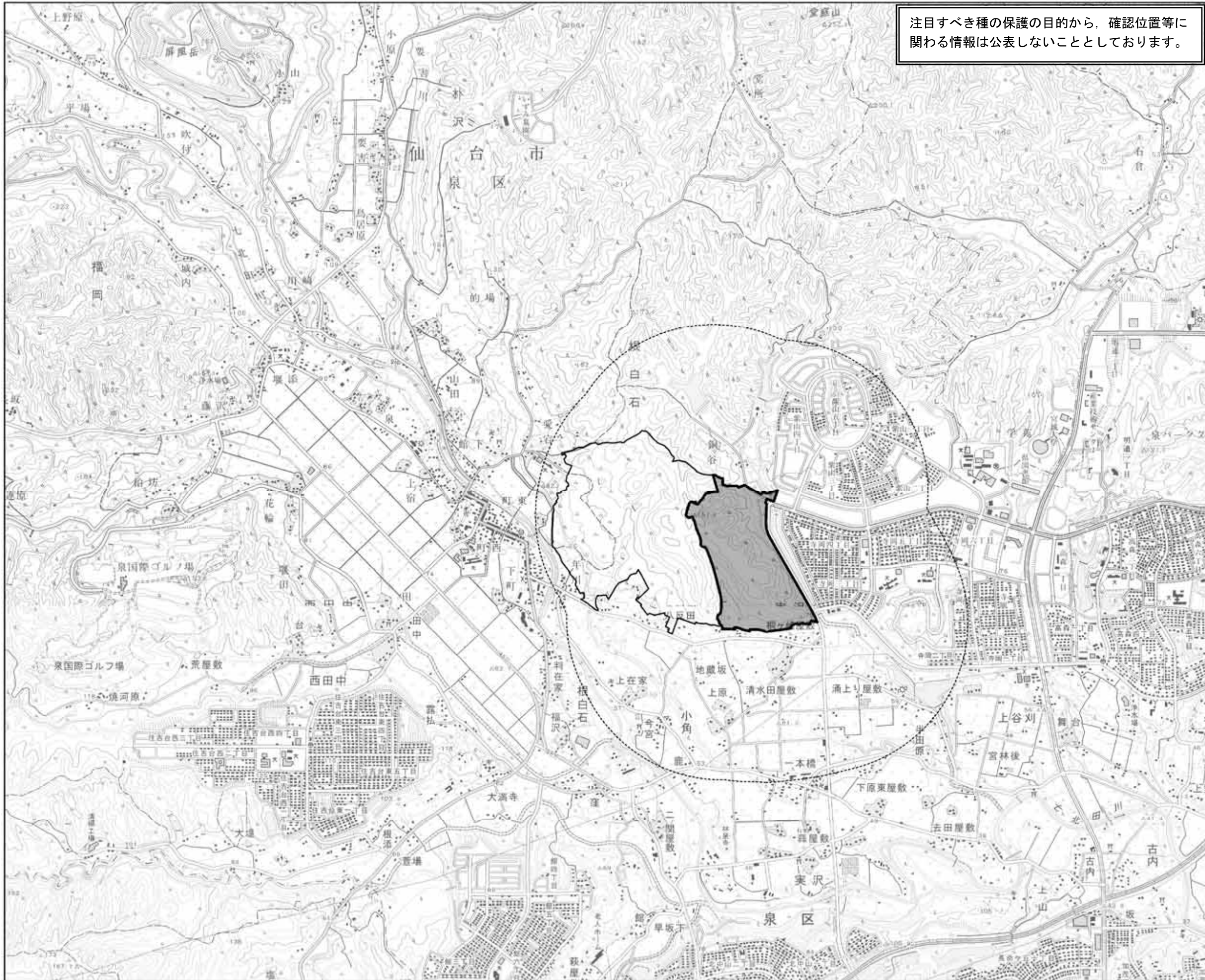
※1：上表は、評価書「表 8.8-21」に本調査結果を追記したものである。

※2：利用種が確定できないものは、不明と記載している。

※3：

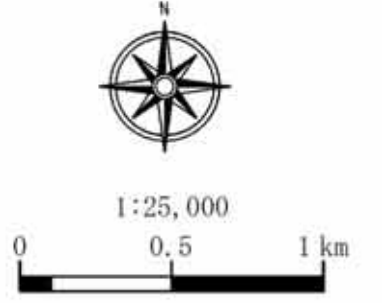
[Redacted text]

注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。



凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

図 7.7-5 事後調査で確認された繁殖巣位置



② 注目すべき種

a) 一般鳥類調査

事後調査で確認された鳥類（一般鳥類）のうち、注目すべき種は表 7.7-19に示すとおり、10目20科26種であった（注目すべき種は、前掲の表 7.7-10に示す基準に準ずる）。

注目すべき種の確認状況は表 7.7-20、確認位置は図 7.7-6(1)～(5)に示すとおりである。

表 7.7-19 注目すべき種（鳥類：一般鳥類）※1

No.	目名	科名	種名	確認時期					注目すべき種選定基準										
				春季	初夏季※2	夏季	秋季	冬季	①	I					II	III	IV	V	
										②									③
1	キジ	キジ	ヤマトリ	○					1,4	+	C	・	・	・	○				
2	カモ	カモ	オトリ				○		1,4	+	C	B	・	・			DD		
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○						・	C	B	C	C	○				
4	ツル	クイ	オバン				○			・	・	・	B	B					
5	ヨカ	ヨカ	ヨカ		○	○			1,4	+	C	B	・	・	○	NT	NT		
6	タカ	タカ	サシバ			○			1,4	C	C	A	C	C		VU	VU		
7			ノスリ	○						+	C	C	C	・	○				
8	ブッポウソウ	カササギ	カササギ	○		○			1,4	・	C	C	C	・	○				
9	キツキ	キツキ	アカゲラ			○	○	○		+	C	B	C	C					
10			アオゲラ	○			○			+	C	B	C	C	○				
11	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ					○	1,4	・	C	B	C	B					
12	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○		○				C	C	B	C	C		VU	VU		
13		カササギヒタ	サンコウチョウ	○		○			1	・	C	B	・	・	○				
14		モズ	モズ	○		○	○	○	1	+	C	B	C	C	○				
15		ヒバリ	ヒバリ	○		○				・	C	B	C	C	○				
16		ツバメ	ツバメ	○		○				・	C	C	C	・	○				
17		ウグイス	ウグイス	○		○	○	○	1,4	+	+	C	C	C	○				
18		ムシクイ	センダングサ	○						+	C	B	・	・	○				
19		ゴジュウカ	ゴジュウカ					○		+	・	B	・	・	○				
20		ヒタキ	トラツグミ	○						+	C	B	C	C	○				
21			クロツグミ	○			○		1,4	+	C	B	C	C	○				
22			キビタキ	○		○				+	C	B	・	・	○				
23		セキレイ	セキレイ			○			1,4	+	C	C	C	・	○				
24			セグロセキレイ	○		○	○	○	4	C	C	C	C	・					
25		ホオジロ	ホオジロ	○		○	○	○		+	+	B	C	C	○				
26			アオシ	○				○		C	C	C	C	C	○				
合計	10目	20科	26種	18種	1種	14種	8種	9種	12種	26種	26種	26種	26種	26種	19種	3種	4種	0種	0種

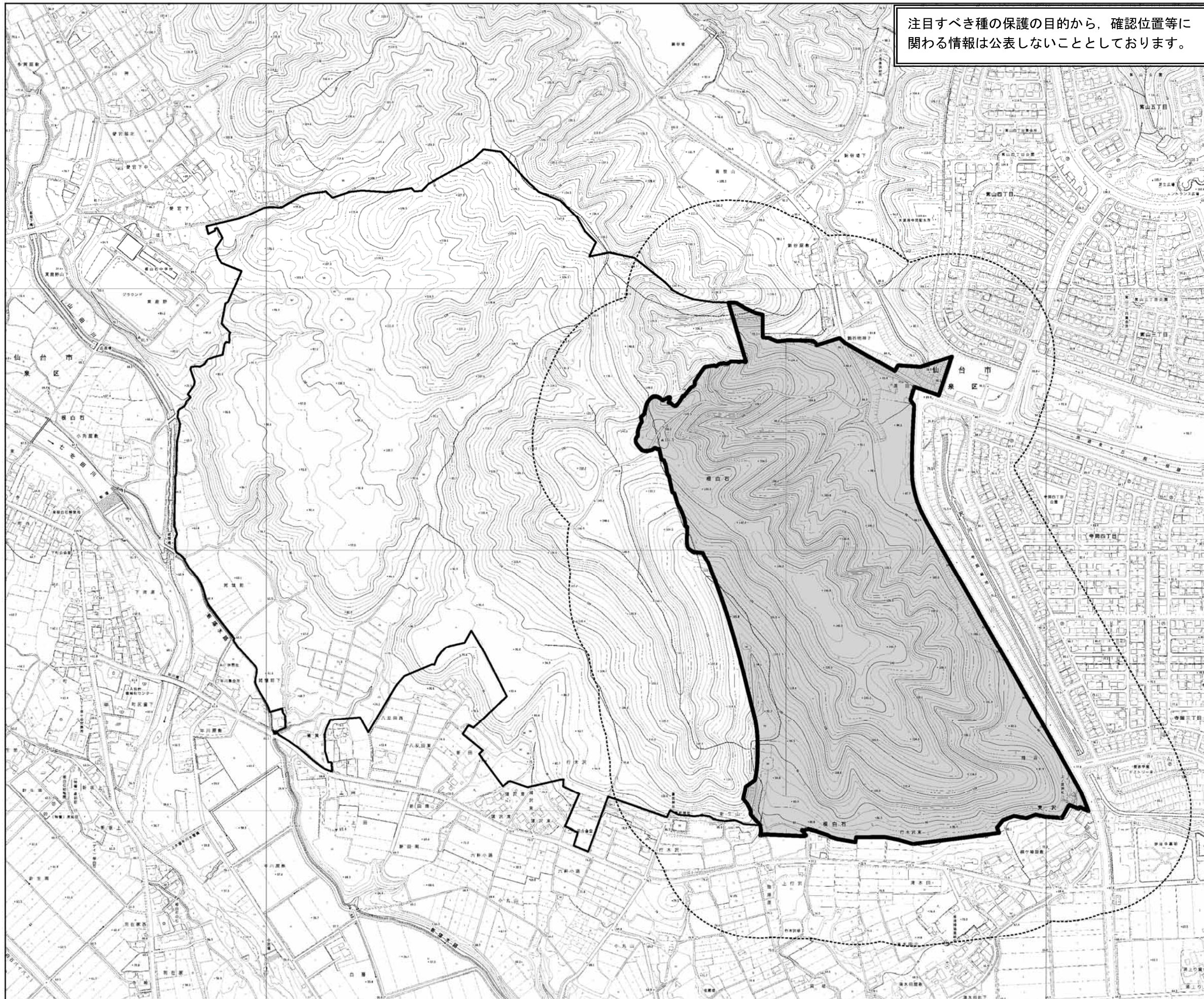
※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会，2012年）に準拠した。

※2：初夏季は、夜間調査を実施した。

表 7.7-20 注目すべき種の確認状況（鳥類：一般鳥類）

No.	種名	確認個体数（確認地点数）					確認状況
		春季	初夏季*	夏季	秋季	冬季	
1	ヤマドリ	1(1)	0	0	0	0	春季に [] の1地点で1個体を確認した。
2	オシドリ	0	0	0	1(1)	0	秋季に [] にて1個体を確認した。
3	カイツブリ	1(1)	0	0	0	0	春季に [] にて1個体を確認した。
4	オオバン	0	0	0	0	1(1)	冬季に [] にて1個体を確認した。
5	ヨタカ	0	6(5)	4(3)	0	0	初夏季～夏季に [] の8地点にて計10個体を確認した。
6	サシバ	0	0	1(1)	0	0	夏季に [] の1地点で1個体を確認した。
7	ノスリ	3(3)	0	0	0	0	春季に [] の3地点で計3個体を確認した。
8	カワセミ	1(1)	0	1(1)	0	0	春季～夏季に, [] の2地点で計2個体を確認した。
9	アカゲラ	0	0	1(1)	8(8)	4(4)	夏季～冬季に, [] の13地点で計13個体を確認した。
10	アオゲラ	1(1)	0	0	3(3)	0	春季及び秋季に, [] の4地点で計4個体を確認した。
11	チョウゲンボウ	0	0	0	0	1(1)	冬季に [] の1地点で1個体を確認した。
12	サンショウクイ	7(5)	0	2(2)	0	0	春季～夏季に, [] の7地点で計9個体を確認した。
13	サンコウチョウ	3(3)	0	3(2)	0	0	春季～夏季に, [] の5地点で合計6個体を確認した。
14	モズ	5(5)	0	2(2)	15(15)	1(1)	各調査時期において, 主に [] の23地点で計23個体を確認した。
15	ヒバリ	1(1)	0	4(1)	0	0	春季～夏季に, [] の2地点で計5個体を確認した。
16	ツバメ	13(7)	0	13(8)	0	0	春季～夏季に, [] の15地点で計26個体を確認した。
17	ウグイス	14(12)	0	7(6)	7(7)	3(2)	各調査時期において, [], 多様な環境の27地点で計31個体を確認した。
18	センダイムシクイ	2(2)	0	0	0	0	春季に [] の2地点で計2個体を確認した。
19	ゴジュウカラ	0	0	0	0	3(2)	冬季に [] の2地点で計3個体を確認した。
20	トラツグミ	1(1)	0	0	0	0	春季に [] の1地点で1個体を確認した。
21	クロツグミ	1(1)	0	0	4(1)	0	春季及び秋季に, [] の2地点で計5個体を確認した。
22	キビタキ	7(7)	0	2(2)	0	0	春季～夏季に, [] の9地点で計9個体を確認した。
23	キセキレイ	0	0	1(1)	0	0	夏季に [] の1地点で1個体を確認した。
24	セグロセキレイ	2(2)	0	2(1)	12(8)	5(3)	各調査時期において, [] の14地点で計21個体を確認した。
25	ホオジロ	4(4)	0	4(4)	3(3)	17(6)	各調査時期において, [] の17地点で計28個体を確認した。
26	アオジ	3(3)	0	0	0	5(3)	春季及び冬季に, [] の6地点で計8個体を確認した。

※：初夏季は、夜間調査を実施した。



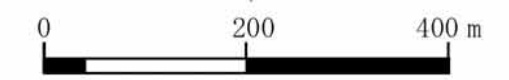
注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

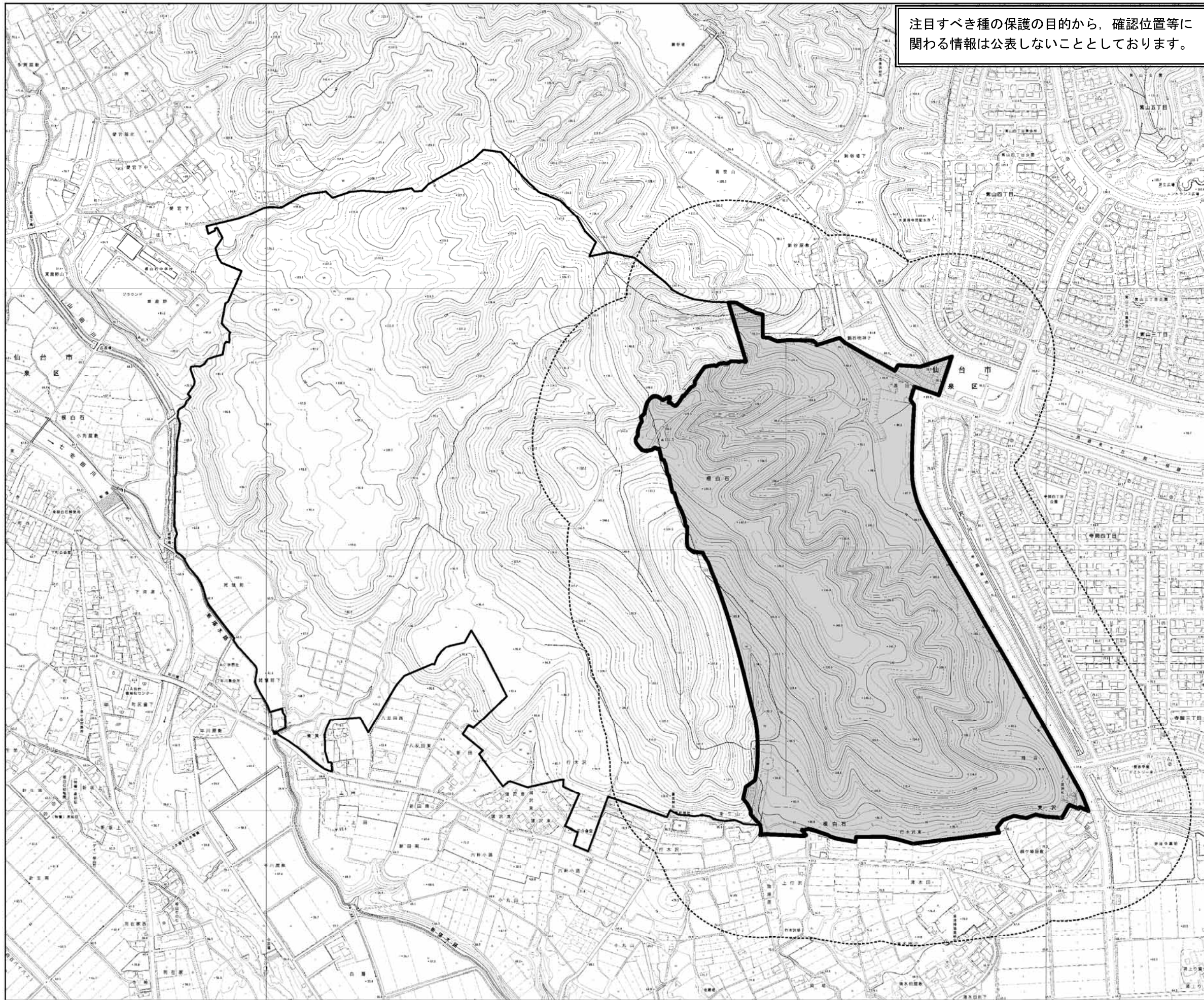
凡 例	
	重要種位置
	対象事業計画地
	東工区
	東工区より200mの範囲

図 7.7-6(1) 注目すべき種(一般鳥類, 春季) 確認位置 (1/5)



1:7,500





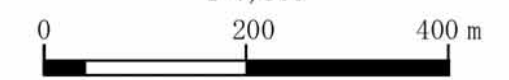
注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

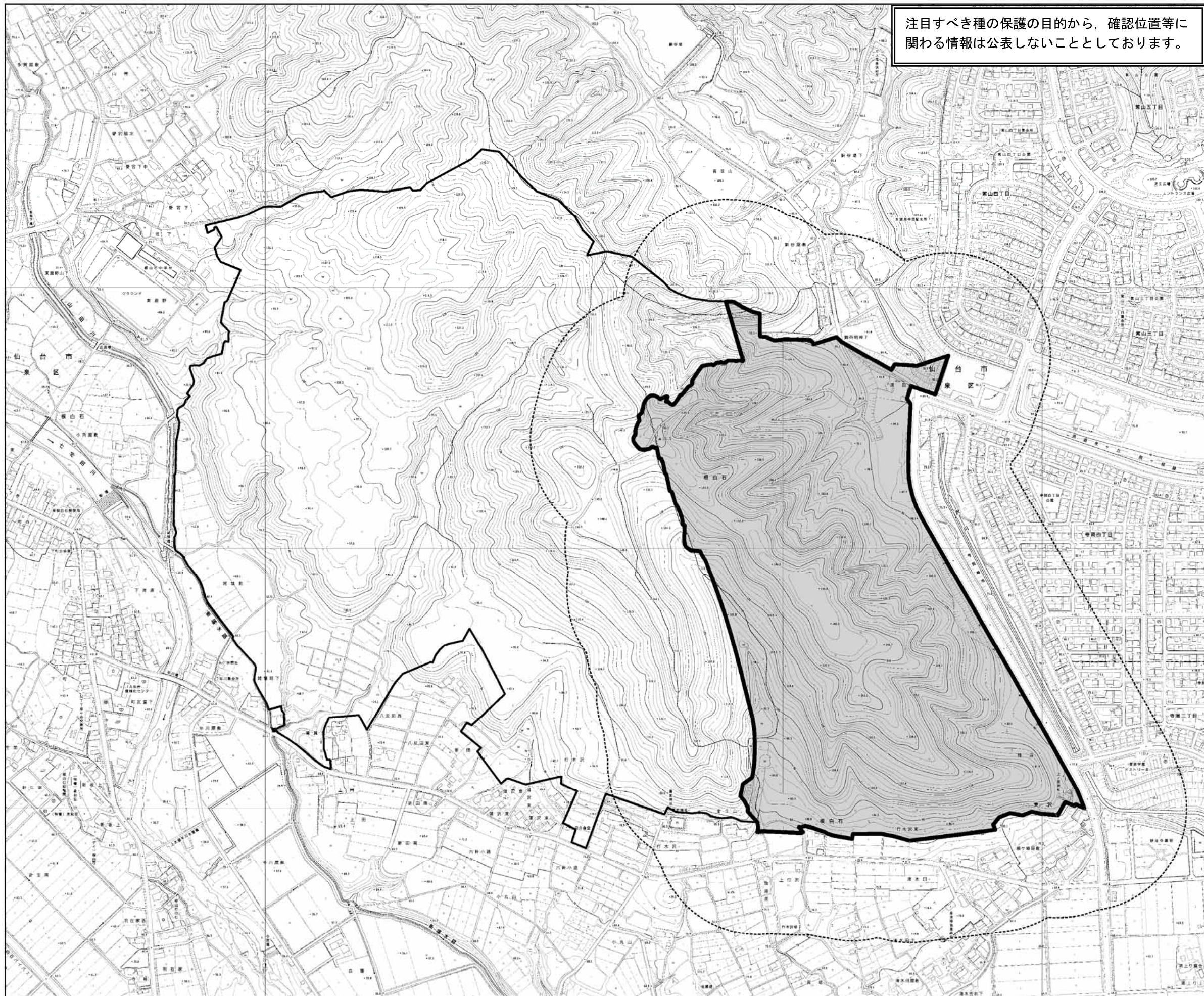
凡 例	
	重要種位置
	対象事業計画地
	東工区
	東工区より200mの範囲

図 7.7-6(2) 注目すべき種(一般鳥類, 初夏季) 確認位置 (2/5)



1:7,500





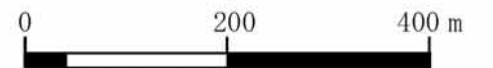
注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

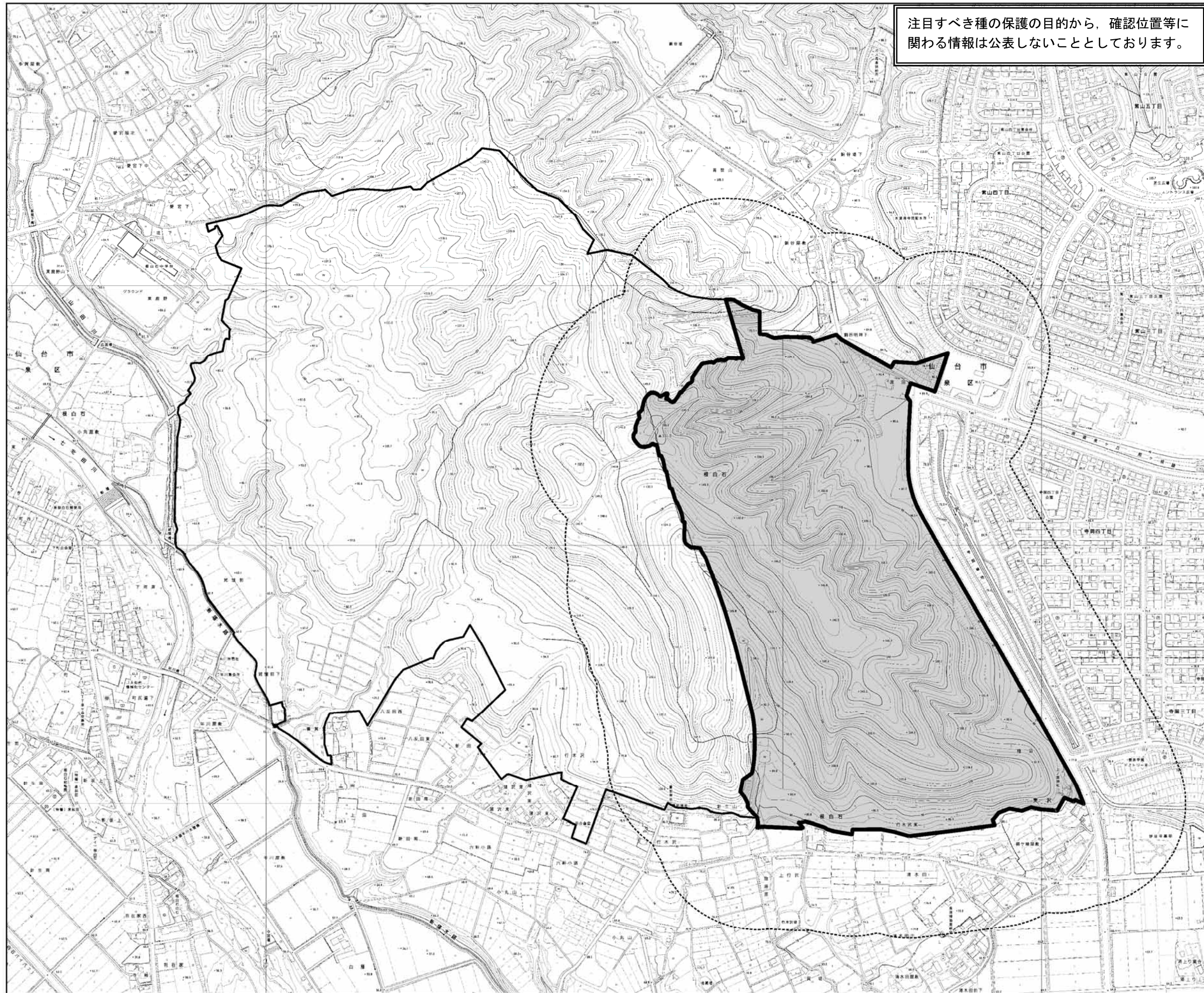
凡 例	
● ←	重要種位置
▭	対象事業計画地
▭	東工区
○	東工区より200mの範囲

図 7.7-6(3) 注目すべき種(一般鳥類, 夏季) 確認位置 (3/5)



1:7,500





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

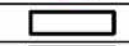

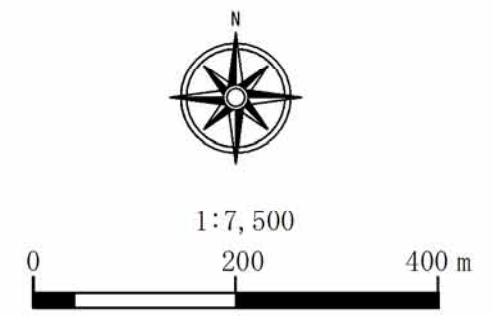
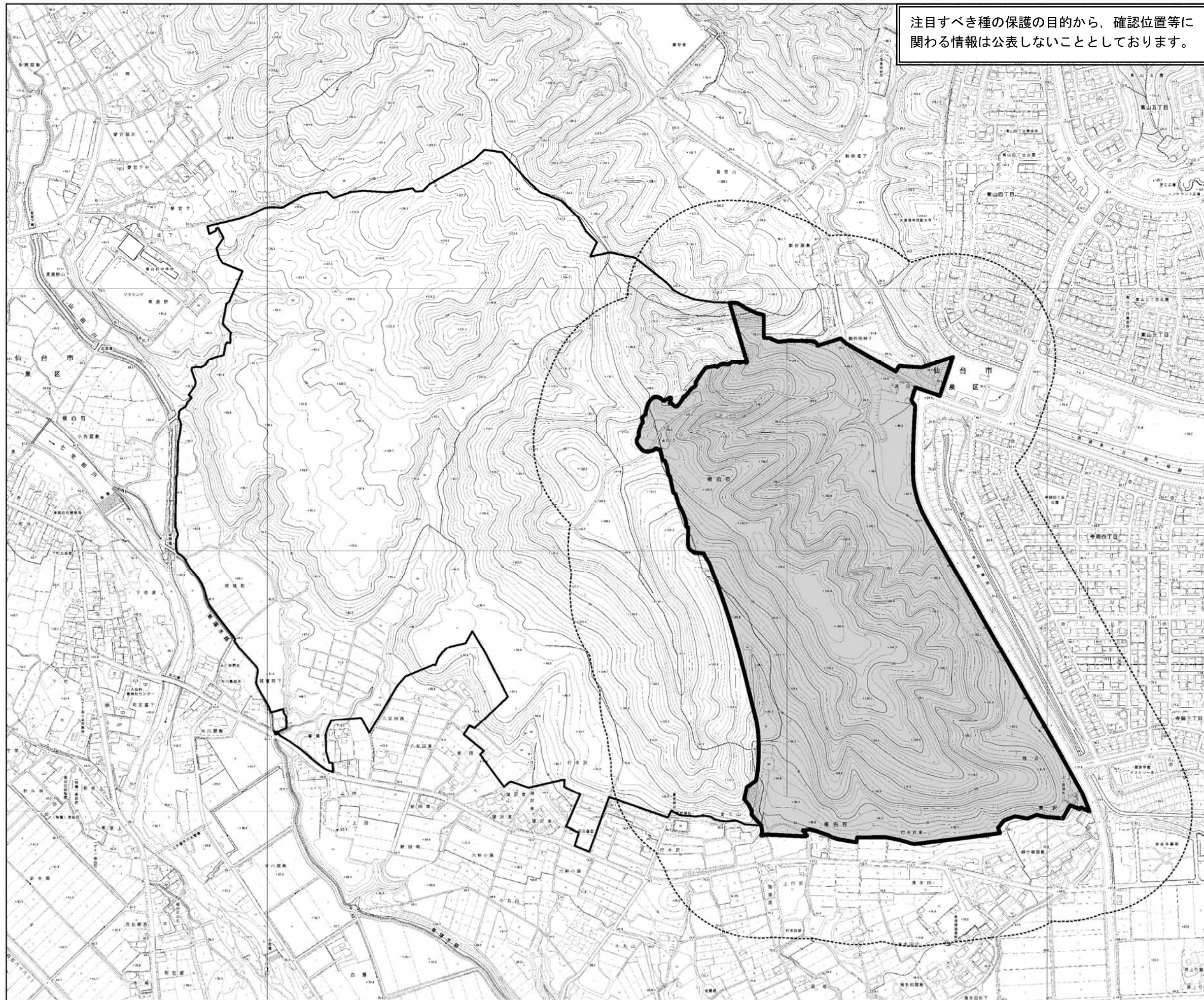
凡 例	
	重要種位置
	対象事業計画地
	東工区
	東工区より200mの範囲

図 7.7-6(4) 注目すべき種(一般鳥類, 秋季) 確認位置 (4/5)

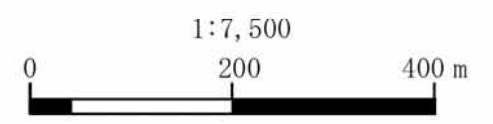




注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

凡 例	
● ←	重要種位置
▭	対象事業計画地
▭	東工区
○	東工区より200mの範囲

図 7.7-6(5) 注目すべき種(一般鳥類, 冬季) 確認位置 (5/5)



b) 猛禽類

事後調査で確認された鳥類（猛禽類）のうち、注目すべき種は表 7.7-21に示すとおり、2目3科10種であった（注目すべき種は、前掲の表 7.7-10に示す基準に準ずる）。

注目すべき種の確認状況は表 7.7-22(1)～(2)、飛翔図は図 7.7-7(1)～(10)に示すとおりである。

表 7.7-21 注目すべき種（鳥類：猛禽類）※

目名	科名	種名	確認回数 (H31.2～R1.8)	注目すべき種の選定基準										
				I							II	III	IV	V
				①	②					③				
	1	2	3	4	5									
タカ	ミサゴ	ミサゴ	4	1,4	・	・	・	C	C	○		NT		
	タカ	ハチクマ	40	1,4	C	C	・	・	・		NT	NT		
		ツミ	2	1,4	C	C	C	C	C		DD			
		ハイタカ	13	1,4	C	C	C	C	C		NT	NT		
		オオタカ	48	1,4	C	C	B	B	C	○	NT	NT		
		サシバ	21	1,4	C	C	A	C	C		VU	VU		
		ノスリ	93		+	C	C	C	・	○				
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	20	1,4	・	C	B	C	B					
		チゴハヤブサ	2		・	・	B	B	・		要			
		ハヤブサ	8	1,4	C	B	B	B	B		NT	VU		国内
2目	3科	10種	251回	8種	10種	10種	10種	10種	10種	3種	7種	6種	0種	1種

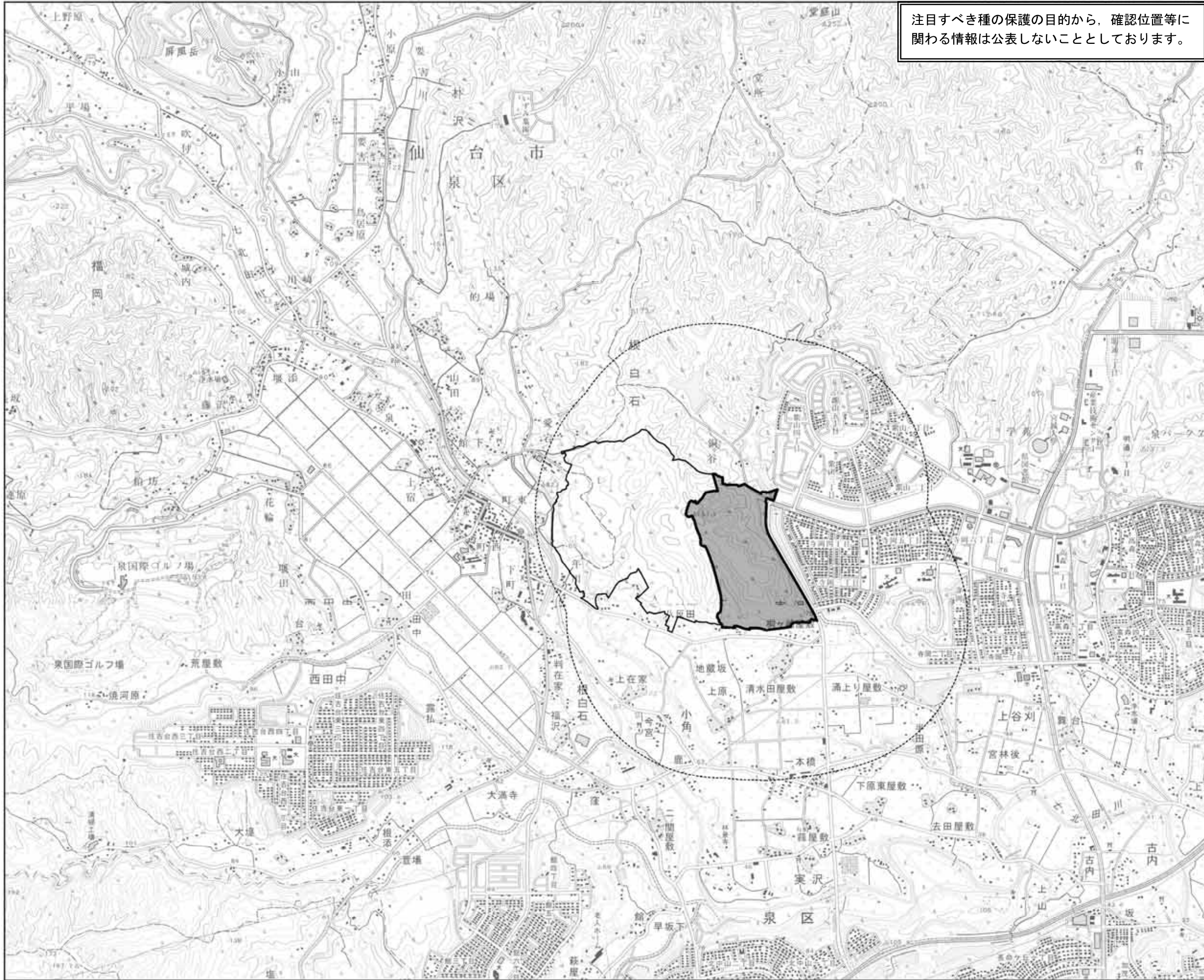
※：種名や学名およびその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 2012年）に準拠した。

表 7.7-22(1) 注目すべき種の確認状況（鳥類：猛禽類）(1/2)

確認種	確認回数※	確認状況	繁殖の有無
ミサゴ	4回	<p>【確認位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [] で確認された。 ● 集中的に確認されたエリアはなかった。 <p>【繁殖行動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 巣材運搬や餌運搬といった繁殖指標行動は確認されていない。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
ハチクマ	40回	<p>【確認位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [] に集中して確認された。 ● 一部, [] にかけて確認された。 <p>【繁殖行動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 餌運搬や見張りといった繁殖指標行動が確認され、7月調査時に餌運搬先周辺の踏査を行った結果、営巣地を確認した。巣内にて巣内雛1個体を確認した。 ● 8月下旬の定点調査ではハチクマの幼鳥が確認されなかった。 ● 営巣木に隣接した樹木の根回りに糞が確認されていたこと、7月調査時に成鳥雄個体が高頻度で餌を搬入していたこと、本種は巣立ち後すぐに移動分散すること等から、8月調査時は既に巣立ち・分散後であった可能性が高い。 	<p>[] で繁殖確認</p> <p>※繁殖は成功させたと考えられる。</p>
ツミ	2回	<p>【確認位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [] で確認された。 ● 集中的に確認されたエリアはなかった。 <p>【繁殖行動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 巣材運搬や餌運搬といった繁殖指標行動は確認されていない。 ● 確認数が少なく、8月調査のみの確認であったことから、移動個体であったと考えられる。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
ハイタカ	13回	<p>【確認位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [] で確認された。 ● 集中的に確認されたエリアはなかった。 <p>【繁殖行動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 繁殖活動が活発化する6月や7月での確認例数が少なかった。 ● 巣材運搬や餌運搬といった繁殖指標行動は確認されていない。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
オオタカ	48回	<p>【確認位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [] で確認された。 ● [] に飛翔が集中していた。 <p>【繁殖行動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2月～4月までの調査では、誇示行動であるディスプレイ飛翔や警戒声、警戒のためのとまり、同様の位置の林内への出入りが確認されており、当該地域で繁殖していたと考えられる。 ● 5月調査および7月調査で確認がなく、6月は確認例数が少なかった。また、5～7月に繁殖指標行動が確認されなかった。 ● 6月調査時に林内踏査をした結果、新たな営巣地（ [] ）を確認した。 [] の根回りにオオタカの羽根や糞、ヒヨドリの食痕が確認されたことから、今年度は [] を利用して繁殖したが、途中(5月頃)で繁殖を中断したものと考えられる。 ● 8月調査で幼鳥が確認されているが、 [] ペアの幼鳥ではなく、周辺地域から分散した移動個体と考えられる。 	<p>[] で繁殖痕跡を確認</p> <p>※繁殖は中断したと考えられる。</p>

※：確認種の飛翔状況等は、図 7.7-7(1)～(5)に掲載した。

注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。



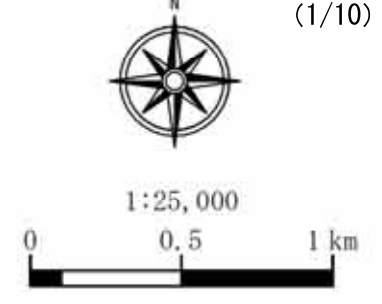
【ミサゴ】	
凡 例	
←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
←○○	旋回
←○○○	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←⊗	探餌飛翔
⊗	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{*1}
←〰〰	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←	巣材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

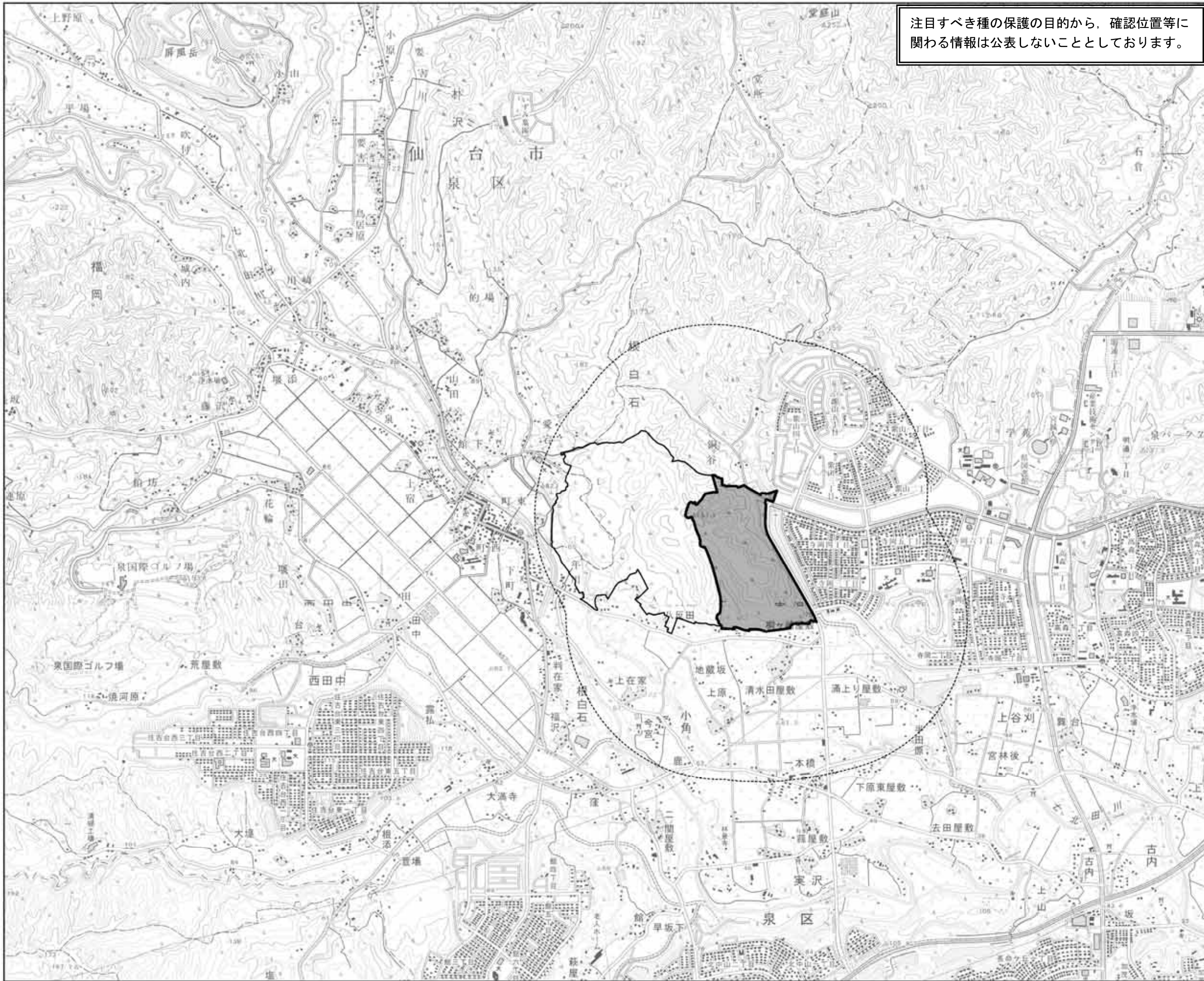
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(1) 注目すべき種
(猛禽類)の飛翔図(ミサゴ)
(1/10)





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

【ハチクマ】

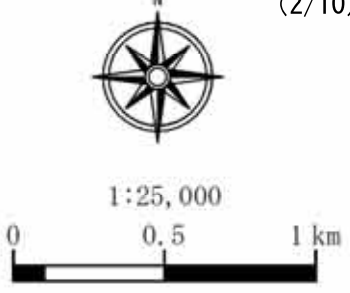
凡 例	
←	飛翔
●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○○	旋回
○○○	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
⊗	探餌飛翔
⊗	停空飛翔
←	ディスプレイ ^{*1}
←	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←	餌運搬
←	巣材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
 *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。

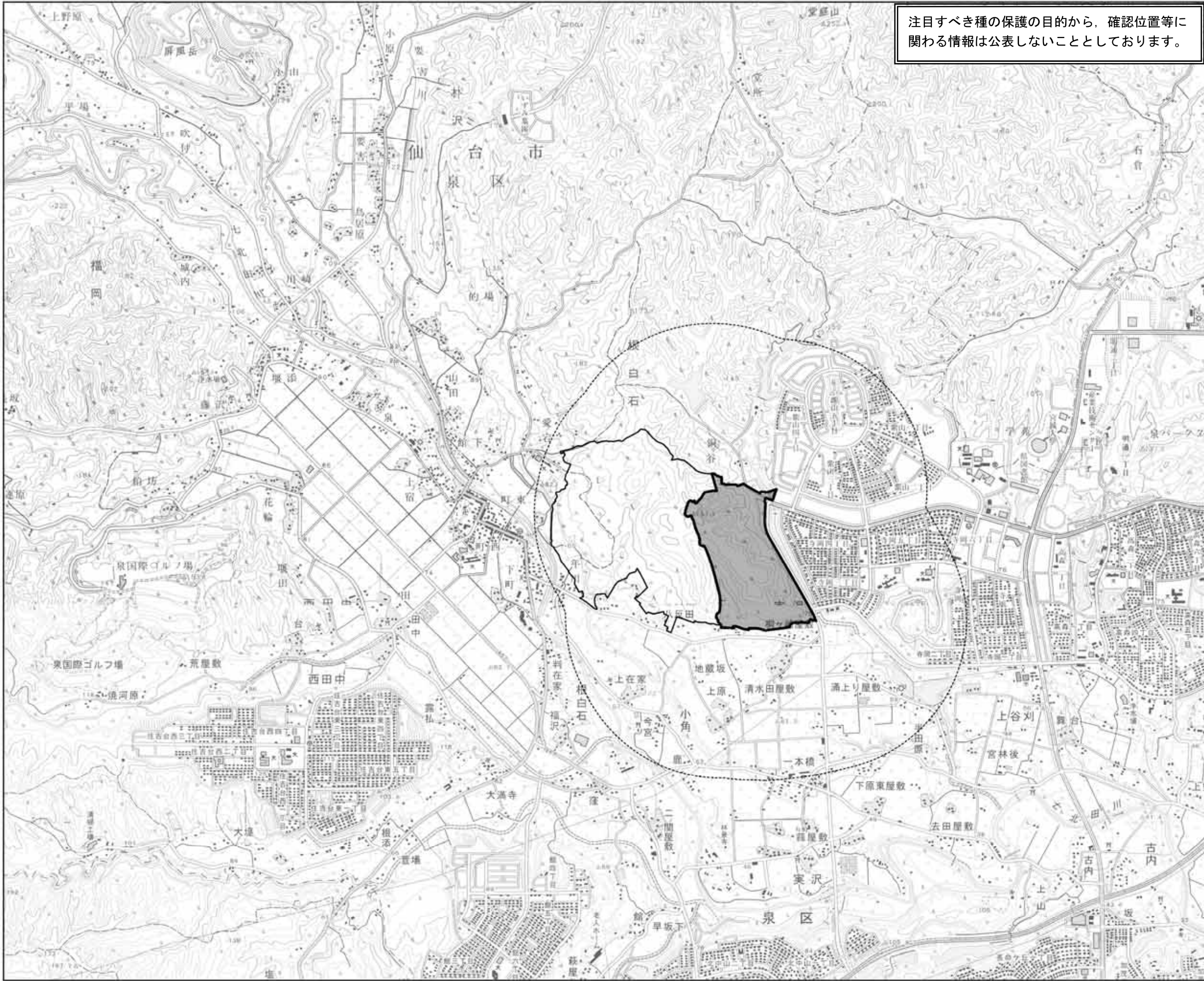
凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(2) 注目すべき種(猛禽類)の飛翔図(ハチクマ) (2/10)



注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。



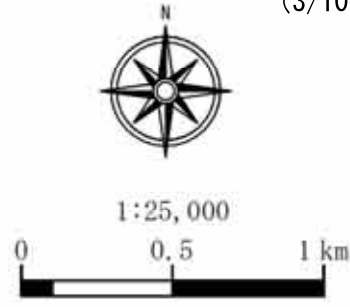
【ツミ】	
凡 例	
←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○	旋回
○○○	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽	探餌飛翔
⊙	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{*1}
←---	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←...	餌運搬
←TTTTT	巢材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

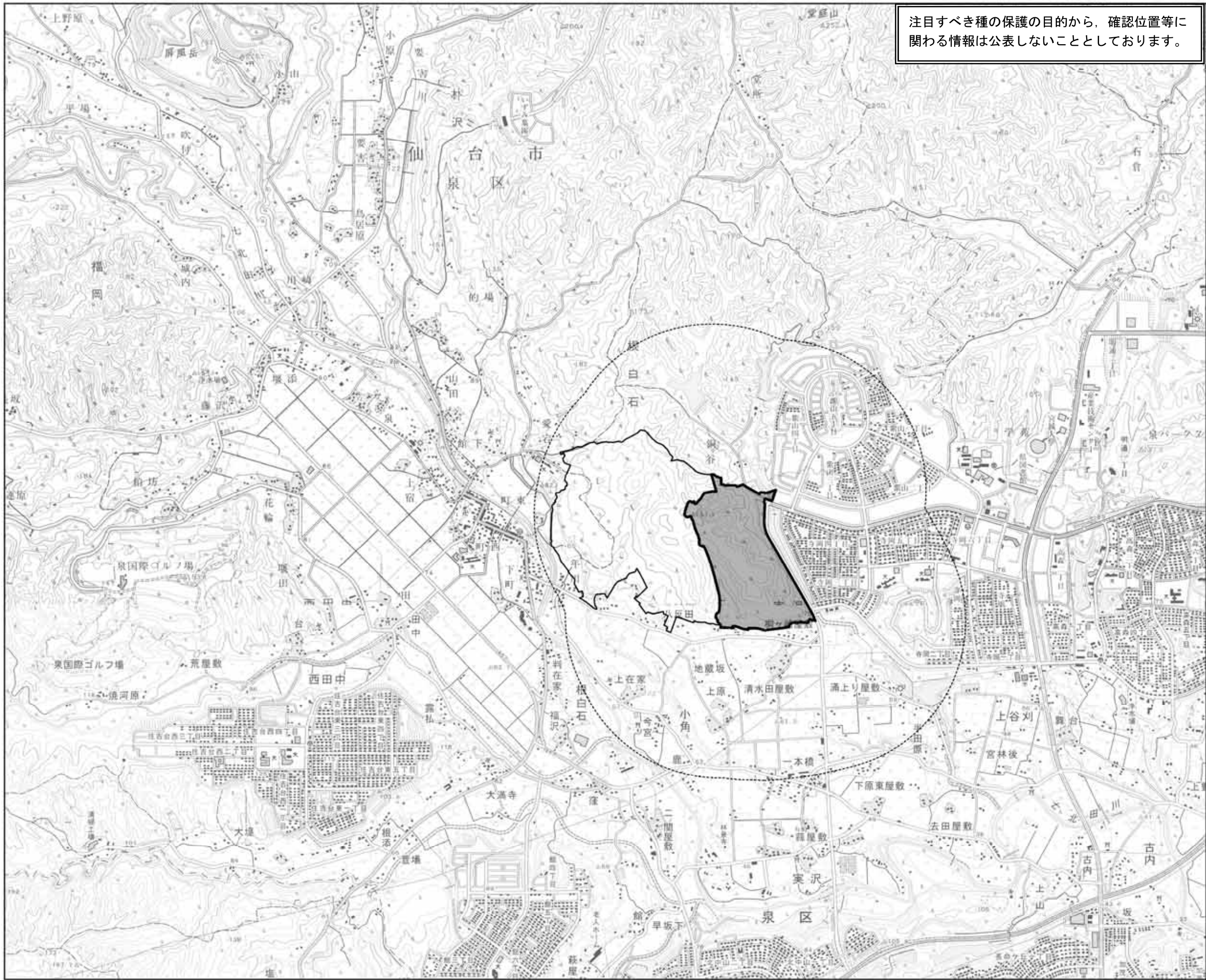
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(3) 注目すべき種(猛禽類)の飛翔図(ツミ) (3/10)





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

【ハイタカ】

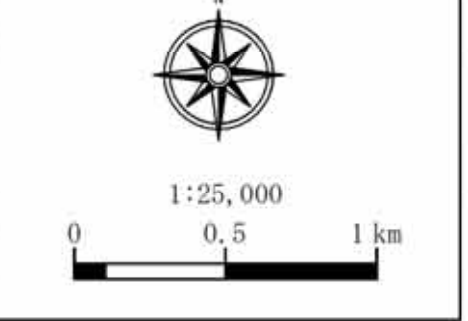
凡 例	
←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○	旋回
○○○	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽	探餌飛翔
⊙	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{#1}
←〰〰	ディスプレイ ^{#2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←TTTTT	巣材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

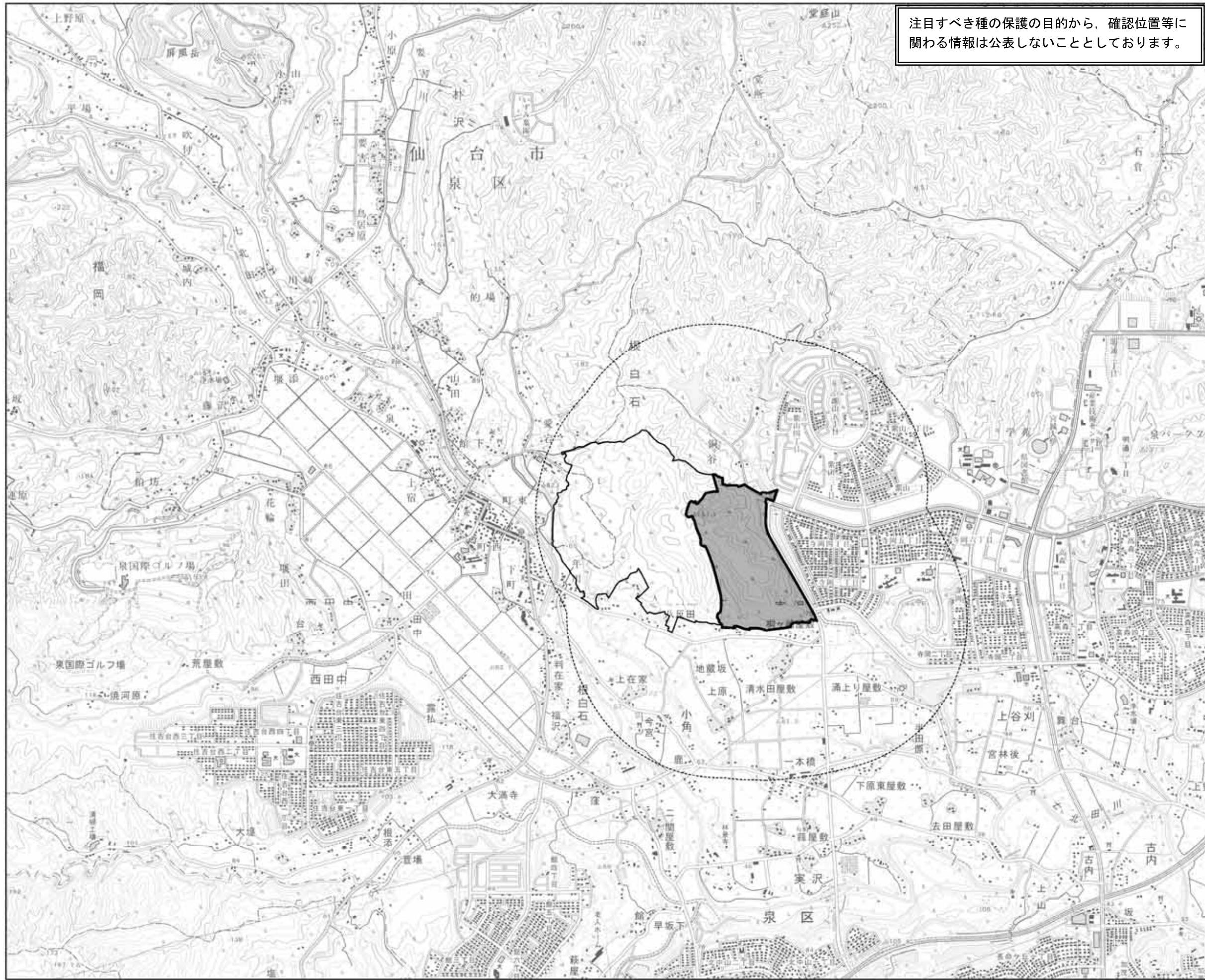
#1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
 #2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(4) 注目すべき種(猛禽類)の飛翔図(ハイタカ) (4/10)





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

【オオタカ】
凡 例

←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○○	旋回
○○○↑	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽▽	探餌飛翔
⊙	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{*1}
←〰〰	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←TTTTT	巣材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

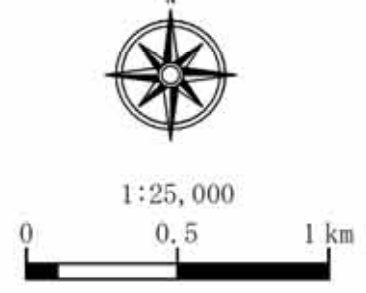
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。

凡 例

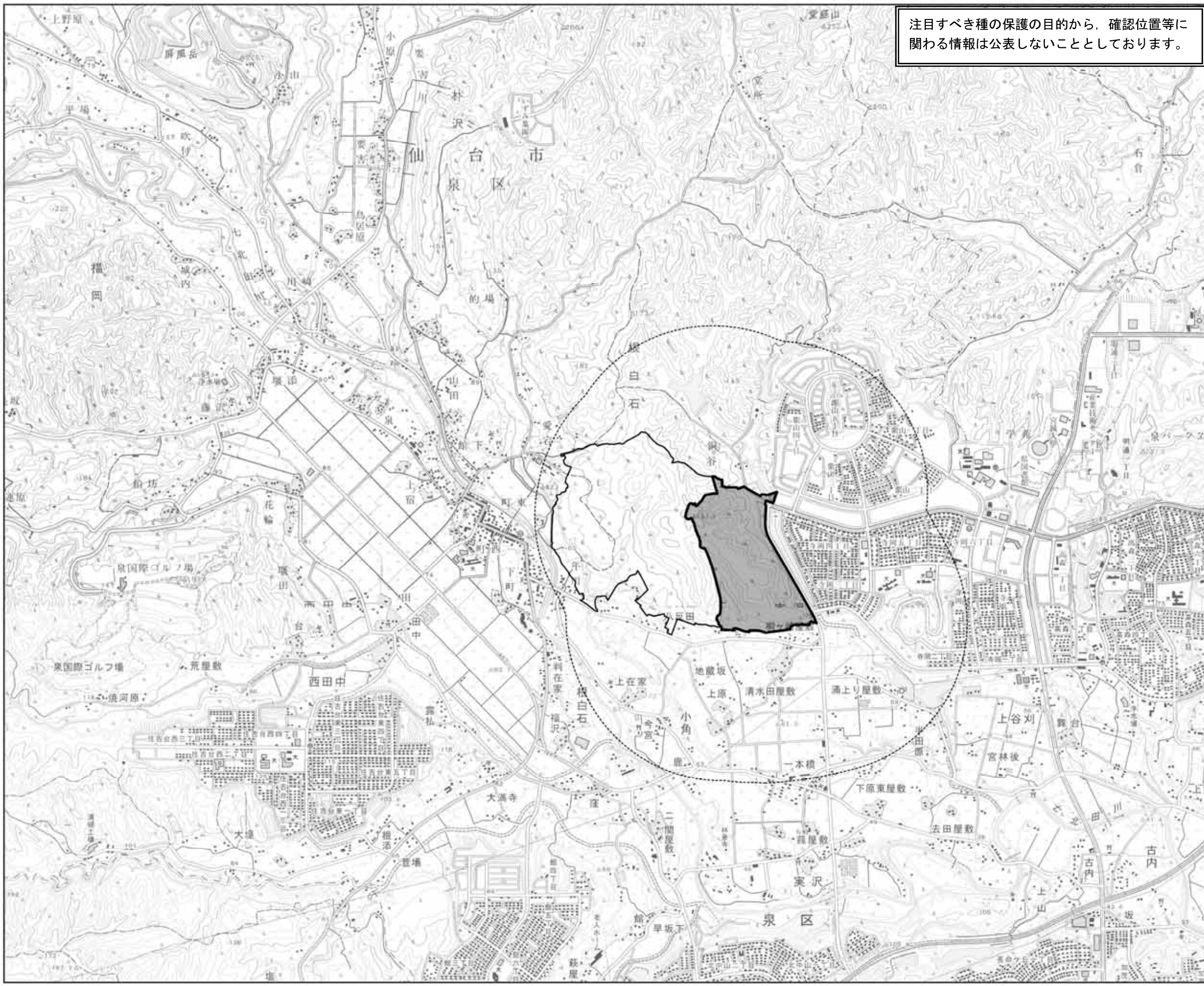
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(5) 注目すべき種
(猛禽類)の飛翔図(オオタカ)
(5/10)



注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。



【サシバ】

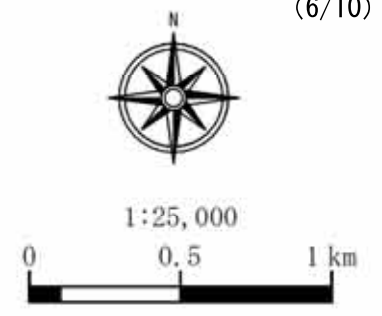
凡 例	
←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○○	旋回
○○○↑	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽▽	探餌飛翔
⊕	停空飛翔
←〰〰	ディスプレイ ^{*1}
←〰〰〰	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←TTTTT	巣材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

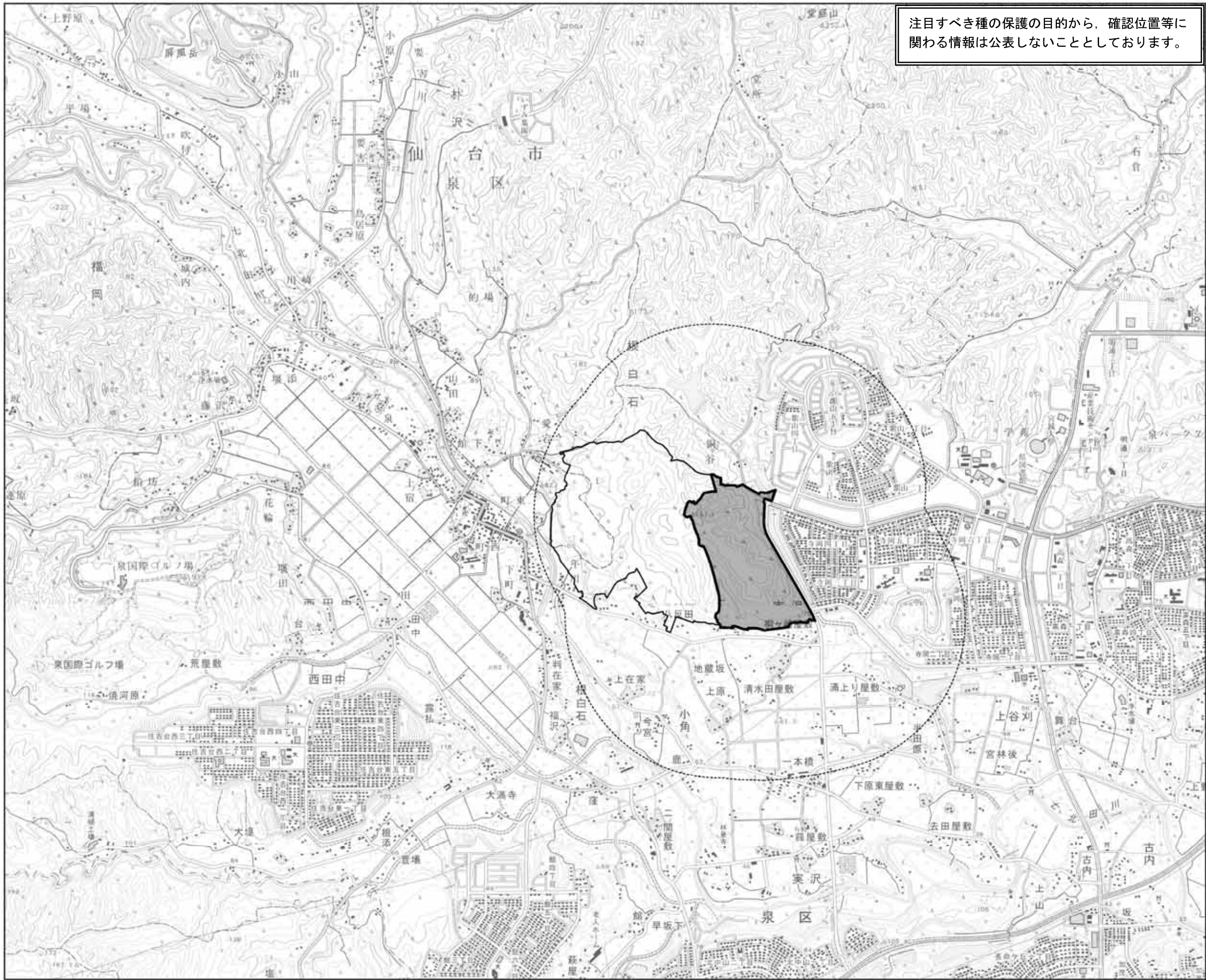
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

凡 例	
←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(6) 注目すべき種
(猛禽類)の飛翔図(サシバ)
(6/10)





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

【ノスリ】

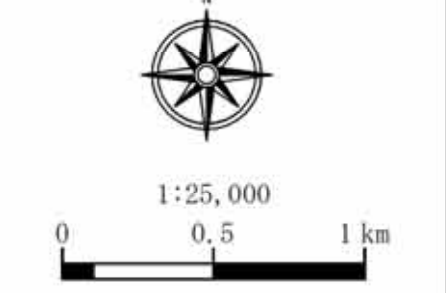
凡 例	
←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
←○○	旋回
←○○○	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽	探餌飛翔
⊙	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{*1}
←〰〰	ディスプレイ ^{*2}
▲▲	攻撃・モビング
▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←TTTTT	巣材運搬
★	交尾
⊙	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

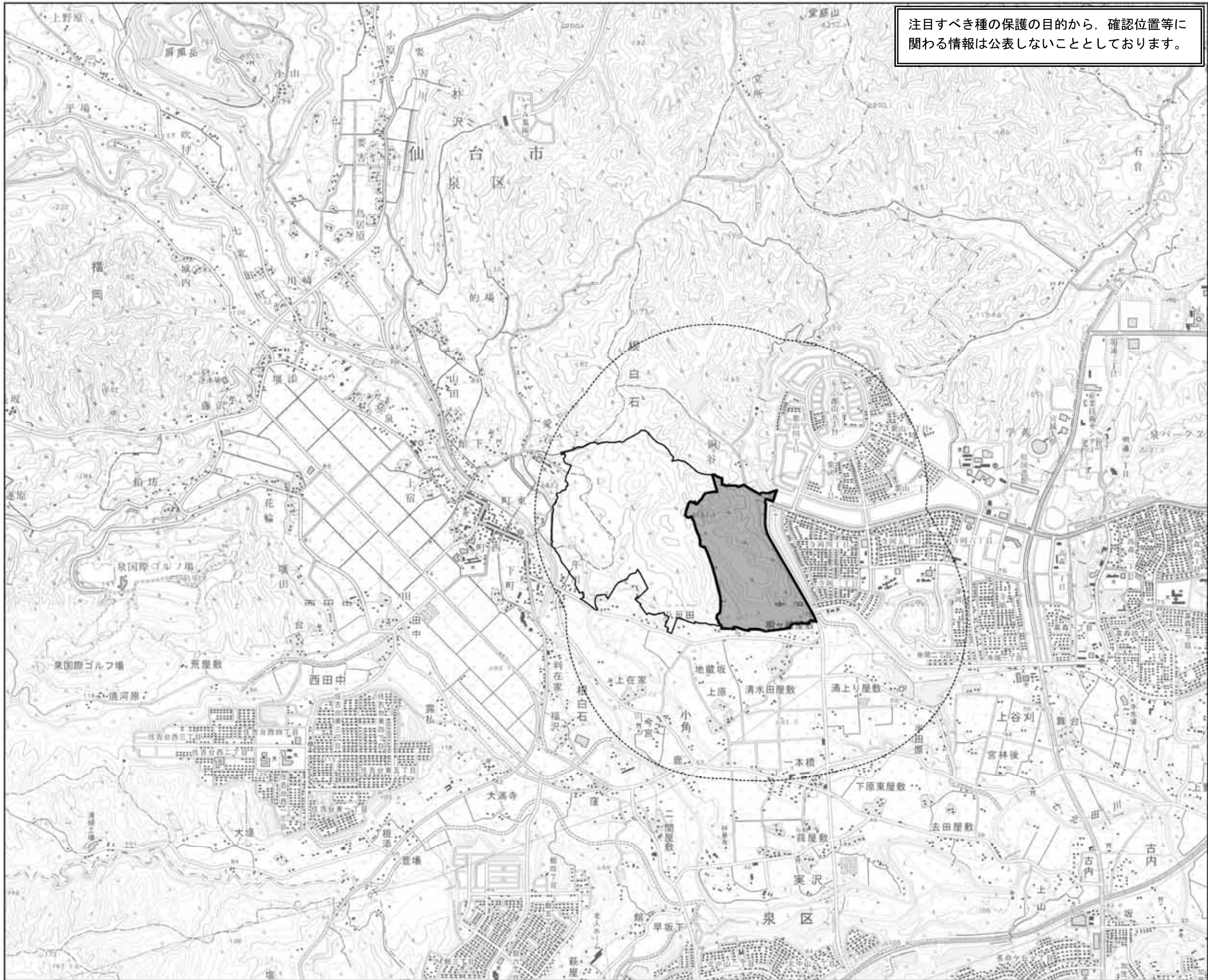
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(7) 注目すべき種
(猛禽類)の飛翔図(ノスリ)
(7/10)





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関する情報は公表しないこととしております。

【チョウゲンボウ】

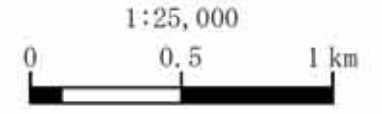
凡 例	
←	飛翔
●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○	旋回
○○○	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
⊗	探餌飛翔
⊗	停空飛翔
←	ディスプレイ ^{*1}
←	ディスプレイ ^{*2}
▲▲	攻撃・モビング
▼▼	被攻撃・被モビング
←	餌運搬
←	巣材運搬
★	交尾
⊗	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。

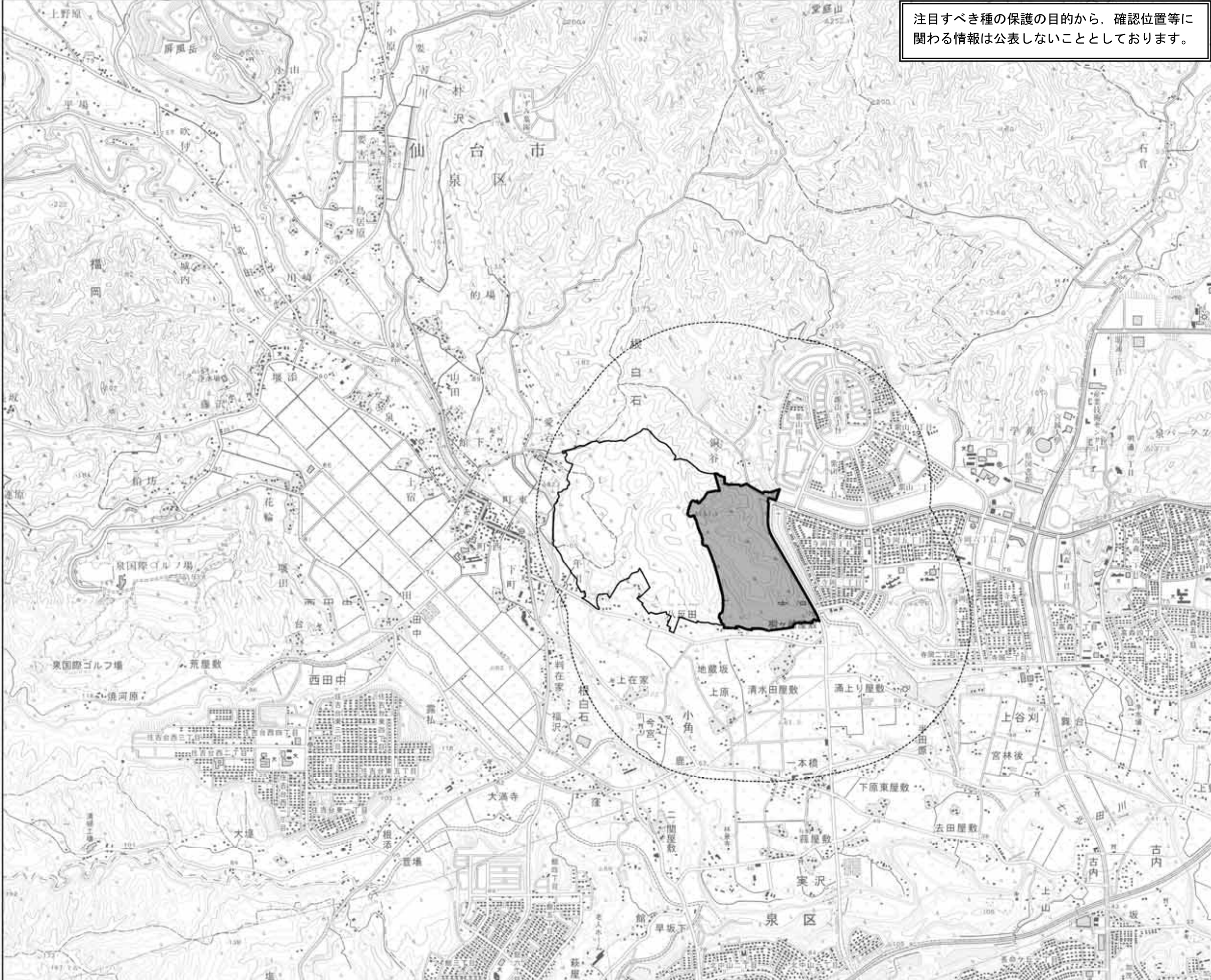
凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(8) 注目すべき種(猛禽類)の飛翔図(チョウゲンボウ) (8/10)



注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。



【チゴハヤブサ】

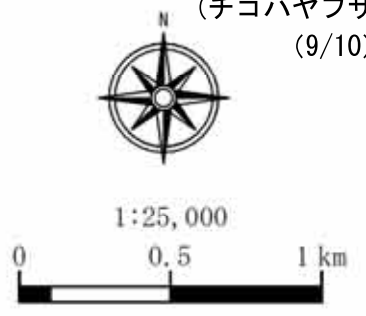
凡 例	
←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○○	旋回
○○○↑	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽	探餌飛翔
⊕	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{*1}
←〰〰	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←TTTTT	巣材運搬
★	交尾
⊕	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

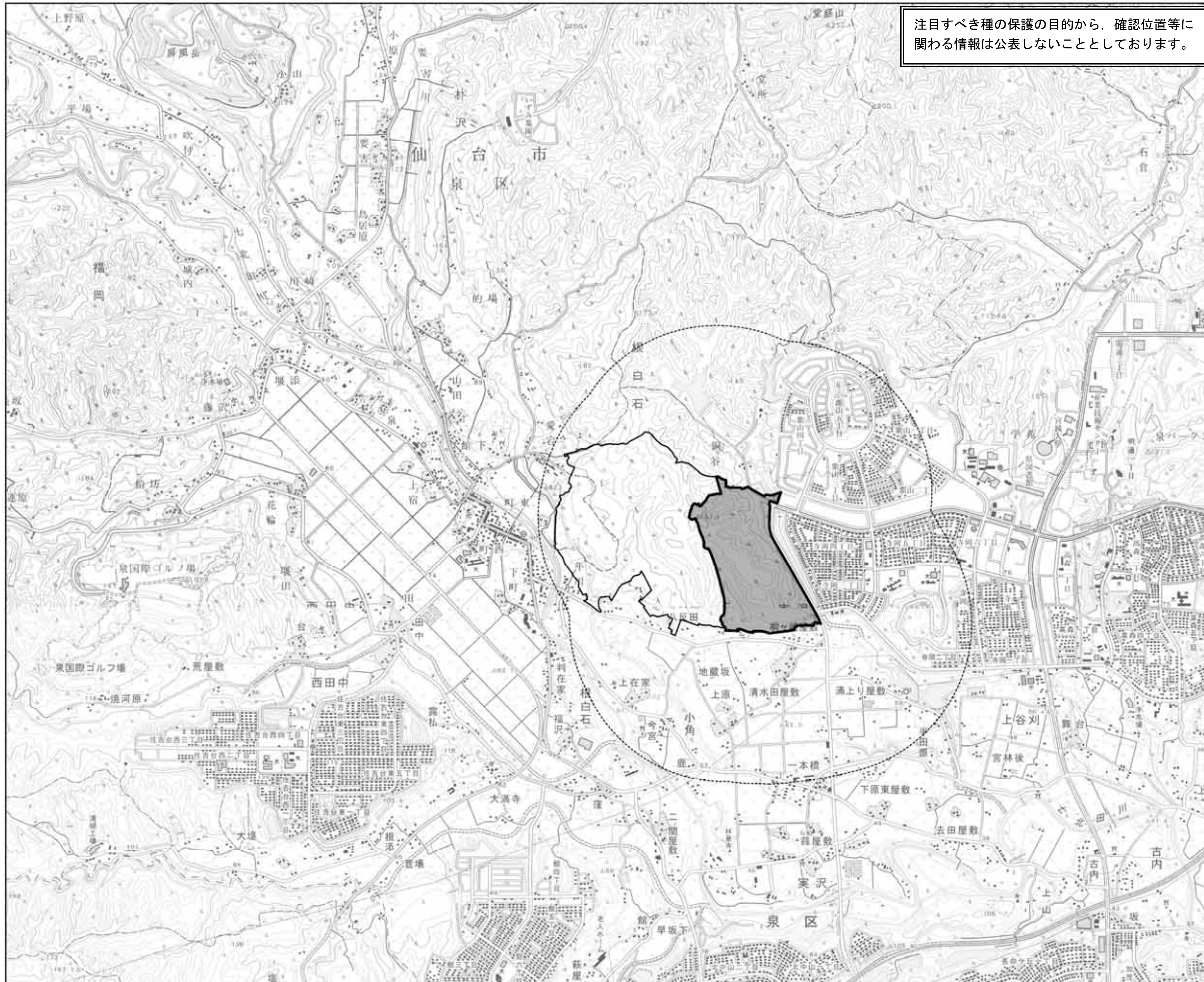
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
 *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(9) 注目すべき種(猛禽類)の飛翔図(チゴハヤブサ) (9/10)





注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

【ハヤブサ】
凡例

←	飛翔
←●	飛翔からとまりで確認終了
●	とまり
○○○	旋回
○○○↑	旋回上昇
←←←	急降下
⊗	狩り(直接攻撃)
←▽▽	探餌飛翔
Ⓜ	停空飛翔
←〰	ディスプレイ ^{*1}
←〰〰	ディスプレイ ^{*2}
▲▲▲	攻撃・モビング
▼▼▼	被攻撃・被モビング
←●●●	餌運搬
←TTTTT	巣材運搬
★	交尾
Ⓜ	鳴き声のみ
●	固定定点
■	移動定点
○	計画地

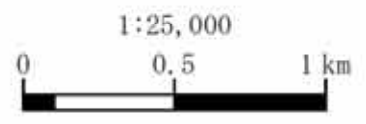
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。

凡例

☆	オオタカ繁殖巣
○	オオタカを除く猛禽類
▼	既往の確認巣(調査対象外)
■	繁殖確認(H31)
■	既往の繁殖巣
■	落巣確認

←	2月飛翔コース
←	3月飛翔コース
←	4月飛翔コース
←	5月飛翔コース
←	6月飛翔コース
←	7月飛翔コース
←	8月飛翔コース

図 7.7-7(10) 注目すべき種(猛禽類)の飛翔図(ハヤブサ) (10/10)



ウ 爬虫類

① 確認種

確認された爬虫類は、表 7.7-23に示すとおりである。

事後調査の結果、早春季に1目2科2種、春季に1目2科3種、夏季に1目1科2種、秋季に1目2科3種、合計1目2科4種の爬虫類が確認された。

〇〇〇〇ではニホンカナヘビ、〇〇〇〇ではニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシが確認された。また、シマヘビは〇〇〇〇で確認された。

表 7.7-23 確認種（爬虫類）※

No.	目名	科名	種名	学名	早春季	春季	夏季	秋季	確認形態
1	有鱗	カヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○	○		○	成体
2		ナミヘビ	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	○	○	○	幼体, 成体, 死体(成体), 抜け殻
3			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		○	○		成体
4			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>				○	成体
合計	1目	2科	4種	-	2種	3種	2種	3種	-

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省 2019年）に準拠した。

② 注目すべき種

事後調査で確認された爬虫類のうち、注目すべき種は表 7.7-24に示すとおり、1目2科3種であった（注目すべき種は、前掲の表 7.7-10に示す基準に準ずる）。

注目すべき種の確認状況は表 7.7-25、確認位置は図 7.7-8に示すとおりである。

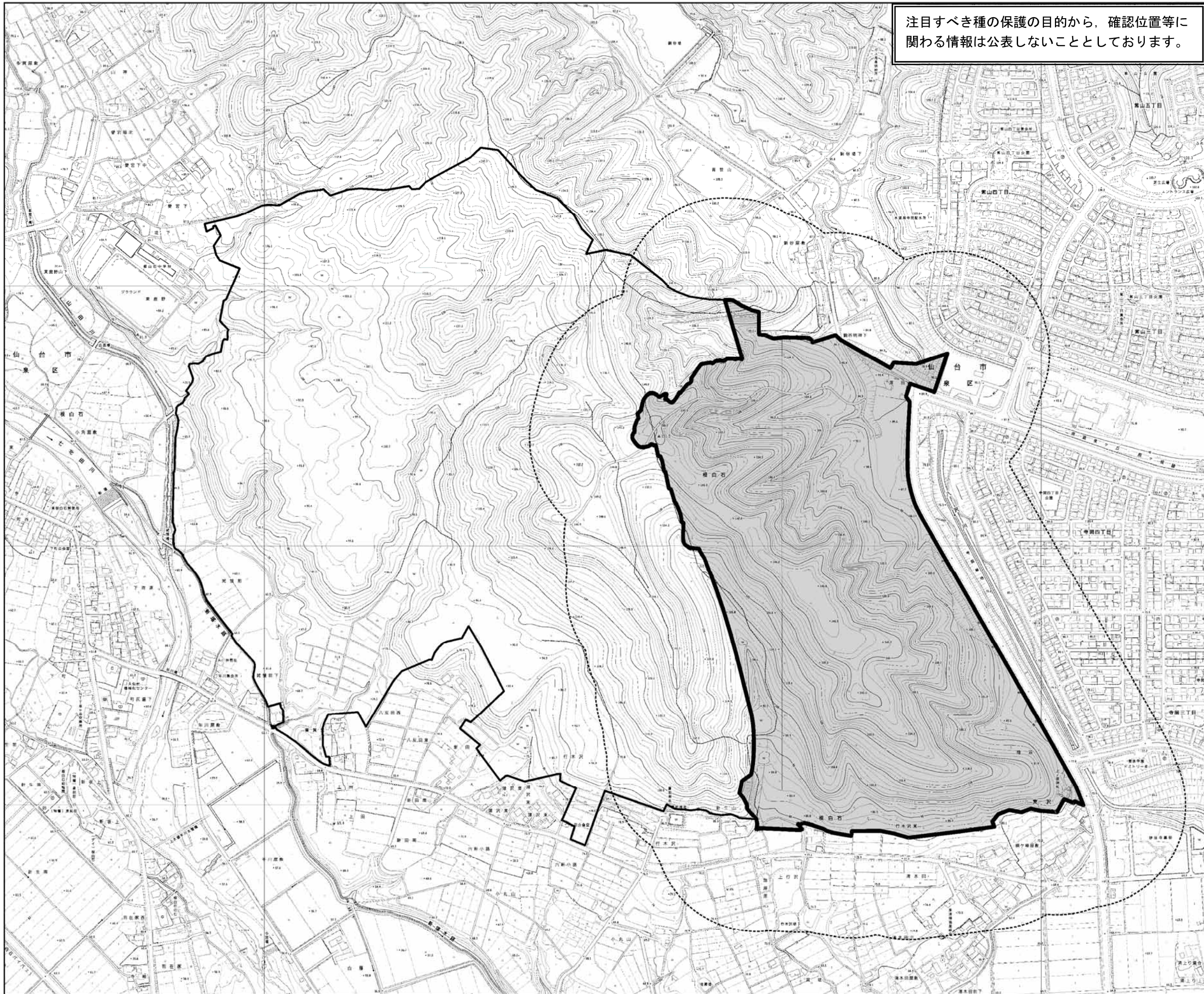
表 7.7-24 注目すべき種（爬虫類）※

No.	目名	科名	種名	早春季	春季	夏季	秋季	注目すべき種の選定基準										
								I							II	III	IV	V
								①	②					③				
1	2	3	4	5	0種	3種	3種		3種	3種	3種	0種	0種		0種	0種		
1	有鱗	カヘビ	ニホンカナヘビ	○	○		○		+	+	C	C	・	○				
2		ナミヘビ	アオダイショウ		○	○			+	+	B	C	C	○				
3			ヤマカガシ				○		・	+	A	C	・	○				
合計	1目	3科	3種	1種	2種	1種	2種	0種	3種	3種	3種	3種	3種	3種	0種	0種	0種	0種

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省 2019年）に準拠した。

表 7.7-25 注目すべき種の確認状況（爬虫類）

No.	種名	確認個体数（確認地点数）				確認状況
		早春季	春季	夏季	秋季	
1	ニホンカナヘビ	2(2)	2(2)	0	2(2)	早春季～春季, 秋季に、〇〇〇〇の6地点で成体6個体を確認した。
2	アオダイショウ	0	1(1)	1(1)	0	春季～夏季に、〇〇〇〇の2地点で成体2個体を確認した。
3	ヤマカガシ	0	0	0	1(1)	秋季に〇〇〇〇の1地点で成体1個体を確認した。



注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

凡 例	
●	重要種位置
▭	対象事業計画地
▭	東工区
○	東工区工事エリアより200mの範囲

図 7.7-8 注目すべき種(爬虫類)確認位置



1:7,500



エ 両生類

① 確認種

確認された両生類は、表 7.7-26に示すとおりである。

事後調査の結果、早春季に2目2科3種、春季に2目4科8種、夏季に2目6科9種、秋季に2目3科5種、合計2目6科12種の両生類が確認された。

では、トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、サンショウウオ属といったサンショウウオ類のほか、アズマヒキガエルやモリアオガエルが確認された。確認位置として、トウホクサンショウウオやサンショウウオ属は、クロサンショウウオは、アズマヒキガエルは、モリアオガエルはでの確認であった。

ではトウキョウダルマガエルが確認され、繁殖のための鳴き声も確認された。

との両環境では、アカハライモリやニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエルが確認された。ニホンアカガエルやニホンアカガエルのいずれもでの確認が多かったのに対し、タゴガエルはでの確認が多く、繁殖のための鳴き声も確認された。

なお、平野部において、水田脇の貯水池でウシガエルが確認された。

表 7.7-26 確認種（両生類）※1

No	目名	科名	種名	学名	早春季	春季	夏季	秋季	確認形態	
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	<i>Hynobius lichenatus</i>	○	○			卵のう	
2			クロサンショウウオ	<i>Hynobius nigrescens</i>	○				卵のう	
			サンショウウオ属※2	<i>Hynobius</i> sp.		○	○			幼生
3		イモリ	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>			○	○	成体, 死体(幼体)	
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>			○		幼体	
5			ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>		○	○	○	幼生, 幼体, 鳴き声	
6			アカガエル	タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	○	○	○		成体, 鳴き声
7				ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>		○	○	○	卵塊, 幼生, 幼体, 成体
8			トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>		○	○	○	成体, 鳴き声	
9			ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>		○	○	○	幼体, 成体, 鳴き声	
10			ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		○			成体	
11			アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>		○			鳴き声
12				モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>			○		卵塊, 幼生
合計	2目	6科	12種	-	3種	8種	9種	5種	-	

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省 2019年）に準拠した。

※2：サンショウウオ属は、トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオのいずれかであるが、幼生のみ確認であり、種を特定するには至らなかった。同属の種が確認されている場合は、種数合計に計上しない。

② 注目すべき種

事後調査で確認された両生類のうち、注目すべき種は表 7.7-27に示すとおり、2目6科11種であった（注目すべき種は、前掲の表 7.7-10に示す基準に準ずる）。

注目すべき種の確認状況は表 7.7-28、確認位置は図 7.7-9(1)～(4)に示すとおりである。

表 7.7-27 注目すべき種（両生類）※1

No.	目名	科名	種名	早春季	春季	夏季	秋季	注目すべき種の選定基準											
								I					③	II	III	IV	V		
								①	②										
	1	2	3	4	5														
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○	○			4	+	C	B	/	/	○	NT	NT			
2			クロサンショウウオ	○					+	C	A	/	/	○	LP	NT			
			サンショウウオ属※2		○	○			4※3	+※4	C※5	B, A※6	/※7	/※8	○※9	NT, LP※10	NT※11		
3		イモリ	アカハイイモリ			○	○		+	C	A	C	/	○	LP	NT			
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル			○			+	C	B	C	/						
5			アマガエル	ニホンアマガエル		○	○	○		+	+	+	+	+	○				
6			アカガエル	タコガエル	○	○	○			+	C	A	/	/					
7				ニホンアカガエル		○	○	○		+	+	A	C	/					
8				トウキョウタマシマカエル		○	○	○		C	C	A	C	/	○	NT	NT		
9				ツチガエル		○				+	C	A	・	/	○	NT			
10				アオガエル	シュレーゲルアオガエル		○				+	+	B	C	/	○			
11					モリアオガエル			○			+	B	/	/	/	○			
合計	2目	6科	11種	3種	7種	8種	4種	1種	11種	11種	11種	11種	11種	8種	5種	4種	0種	0種	

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省 2019年）に準拠した。

※2：サンショウウオ属は、トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオのいずれかであるが、同定形質が不明瞭な幼生のみのものであり、種を特定するには至らなかった。同属の種が確認されている場合は、種数合計に計上しない。

※3：トウホクサンショウウオは「4」に該当する。

※4：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「+」に該当する。

※5：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「C」に該当する。

※6：トウホクサンショウウオは「B」に、クロサンショウウオは「A」に該当する。

※7：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「/」に該当する。

※8：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「/」に該当する。

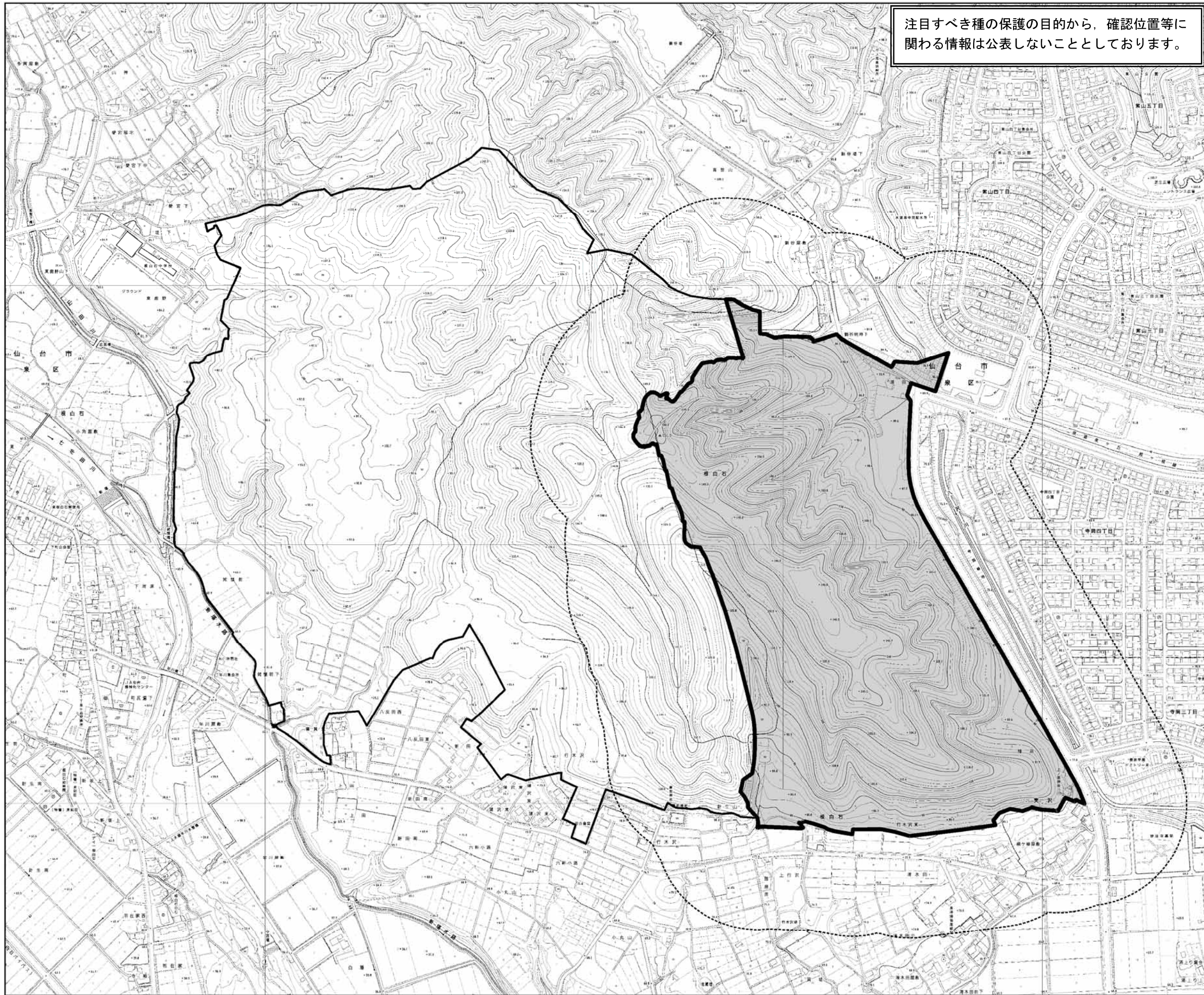
※9：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「○」に該当する。

※10：トウホクサンショウウオは「NT」に、クロサンショウウオは「LP」に該当する。

※11：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「NT」に該当する。

表 7.7-28 注目すべき種の確認状況（両生類）

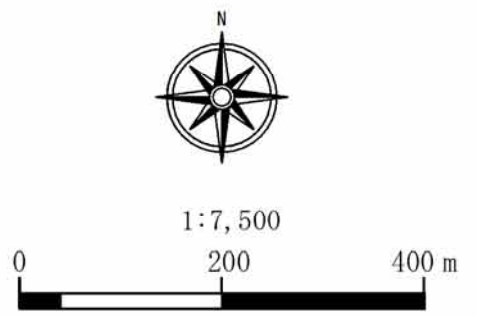
No.	種名	確認形態	確認個体数（確認地点数）				確認状況
			早春季	春季	夏季	秋季	
1	トウホクサンショウウオ	卵のう	12(3)	2(2)	0	0	早春季～春季に、 の 5 地点 で卵のうを計 14 対確認した。
2	クロサンショウウオ	卵のう	80(4)	0	0	0	早春季に の 4 地点で卵のうを計 80 対確認 した。
3	サンショウウオ属	幼生	0	33(2)	10(1)	0	春季～夏季に、 の 3 地点 で幼生を計 43 個体確認した。
4	アカハライモリ	成体・幼体	0	0	1(1)	1(1)	夏季～秋季に、 の 1 地点で成体 1 個体を、 の 1 地点 で幼体の死体を 1 個体確認した。
5	アズマヒキガエル	幼体	0	0	1(1)	0	夏季に の 1 地点で幼体 を 1 個体確認した。
6	ニホンアマガエル	鳴き声, 幼生・幼体	0	6(3)	65(12)	4(3)	春季～秋季に、 でも確認されているが、 での確認が多かつ た。鳴き声を 18 地点、幼生及び幼体を 計 75 個体確認した。
7	タゴガエル	鳴き声, 成体	1(1)	16(4)	4(4)	0	早春季～夏季に、 の 1 地点で成体 1 個体を、 の 8 地点で鳴き声や成体により計 20 個 体を確認した。
8	ニホンアカガエル	卵塊	0	3(2)	0	0	春季～秋季に、 においても確認されているが、 での確認が多かつ た。2 地点で卵塊を計 3 卵塊、26 地点で幼生、幼体及び成体を計 325 個 体確認した。
		幼生, 幼体・成体	0	204(3)	104(14)	17(9)	
9	トウキョウダルマガ エル	鳴き声, 成体	0	2(2)	5(3)	1(1)	春季～秋季に、 の 6 地点で鳴き声及び成体を計 8 個体 確認した。
10	ツチガエル	成体	0	2(2)	0	0	春季に、 や水路の 2 地点で成体を計 2 個体確認 した。
11	シュレーゲルアオガ エル	鳴き声	0	64(9)	0	0	春季に、 の 9 地 点で鳴き声により計 64 個体確認し た。
12	モリアオガエル	卵塊	0	0	1(1)	0	夏季に、 溜まりの 1 地点で 1 卵塊、1 地点で幼生を計 50 個体を確認した。
		幼生	0	0	50(1)	0	

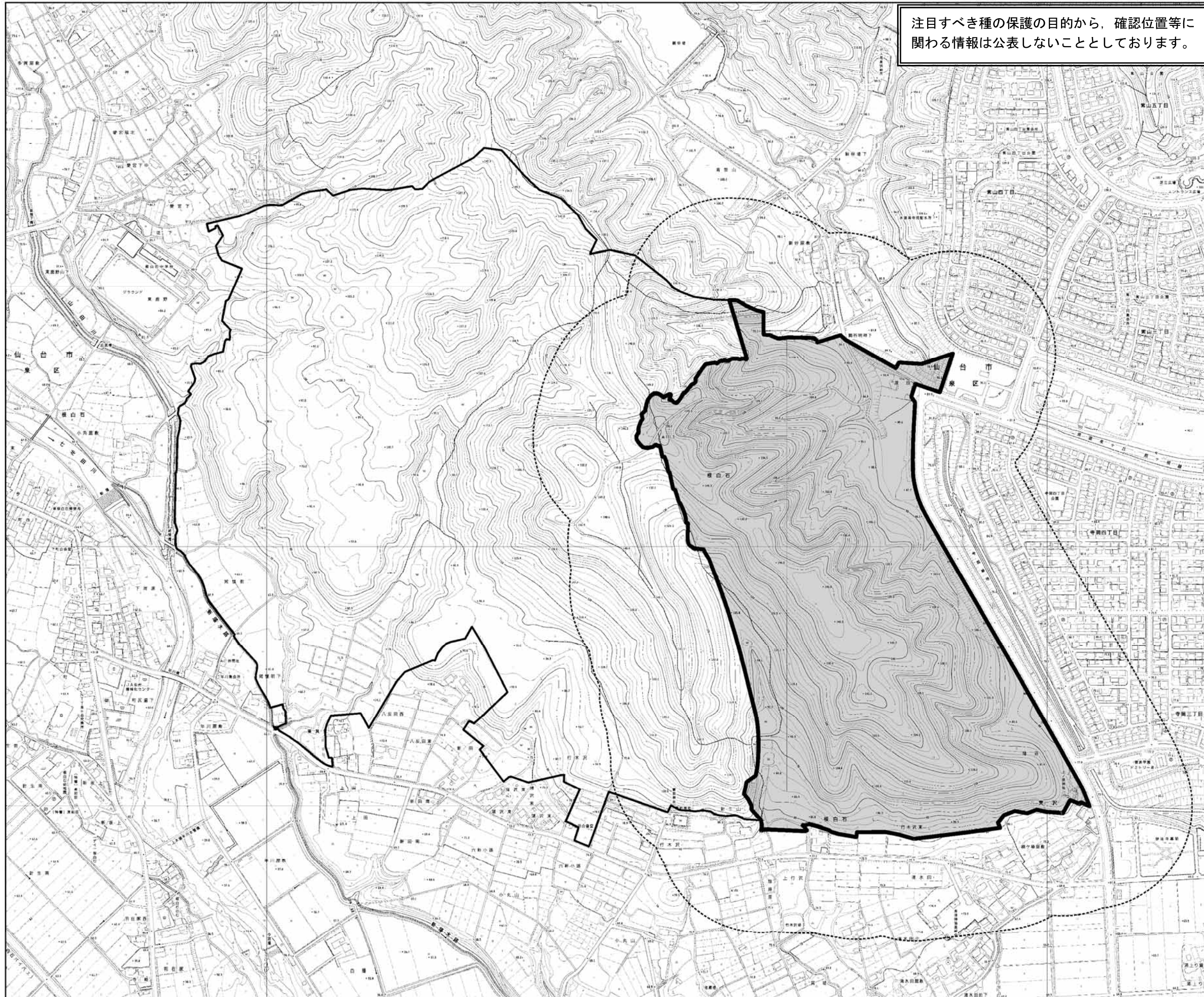


注目すべき種の保護の目的から、確認位置等に関わる情報は公表しないこととしております。

凡 例	
▲	トウホクサンショウウオ
▲	クロサンショウウオ
●	タゴガエル
□	対象事業計画地
■	東工区
○	東工区工事エリアより200mの範囲

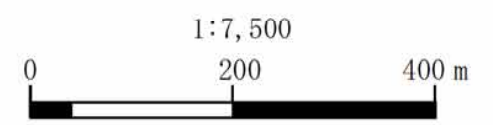
図 7.7-9(1) 注目すべき種(両生類, 早春季) 確認位置 (1/4)

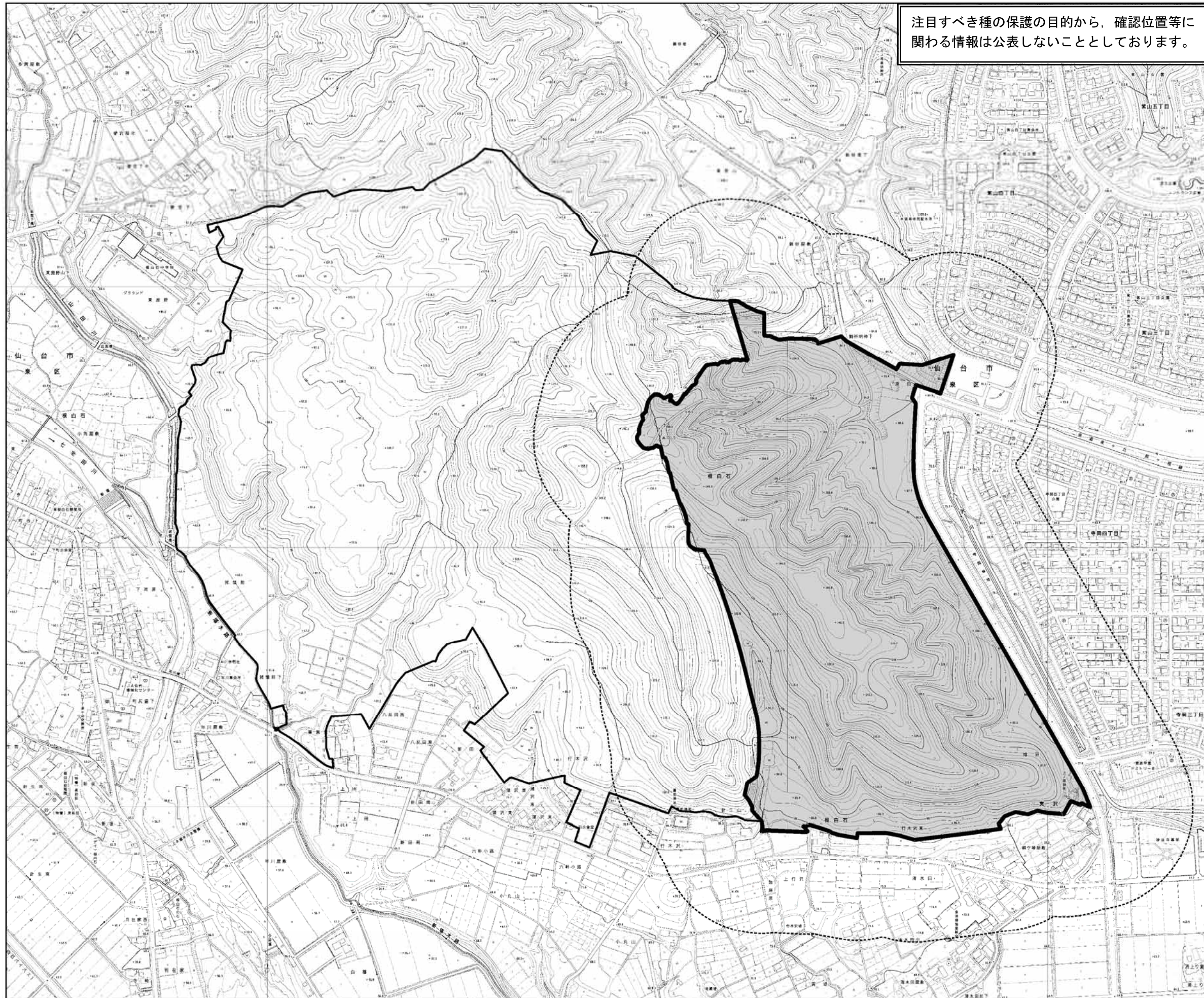




凡 例	
▲	トウホクサンショウウオ
▲	サンショウウオ属
■	ニホンアマガエル
●	タゴガエル
●	ニホンアカガエル
●	トウキョウダルマガエル
●	ツチガエル
◆	シュレーゲルアオガエル
□	対象事業計画地
■	東工区
○	東工区工事エリアより200mの範囲

図 7.7-9(2) 注目すべき種(両生類, 春季) 確認位置 (2/4)





凡 例	
▲	サンショウウオ属
▲	アカハライモリ
■	アズマヒキガエル
■	ニホンアマガエル
●	タゴガエル
●	ニホンアカガエル
●	トウキョウダルマガエル
◆	モリアオガエル
▭	対象事業計画地
▭	東工区
○	東工区工事エリアより200mの範囲

図 7.7-9(3) 注目すべき種(両生類, 夏季) 確認位置 (3/4)



1:7,500

